

＜目次＞（クリックすると該当ページに飛びます）

●全体の集計

- [1.部位別の登録状況](#)
- [2.地域別の登録状況](#)
- [3.男女別の登録状況](#)

●部位別の詳細集計

- [1. 胃](#)
- [2. 大腸](#)
- [3. 肺](#)
- [4. 乳](#)
- [5. 肝](#)
- [6. 頭頸部](#)
- [7. 食道](#)
- [8. 胆嚢・肝外胆管](#)
- [9. 脾臓](#)
- [10. 白血病及び造血器疾患](#)
- [11. 皮膚](#)
- [12. 子宮頸部](#)
- [13. 子宮体部](#)
- [14. 卵巣](#)
- [15. 前立腺](#)
- [16. 腎臓・腎盂・尿管](#)
- [17. 膀胱](#)
- [18. 頭蓋内疾患](#)
- [19. 甲状腺](#)
- [20. 悪性リンパ腫](#)

＜部位別集計の症例区分グラフについて＞

グラフの簡略化のため、省略して表記しております。詳細は以下をご参照ください。

- 1. 診断のみ…当院にて診断のみの症例
- 2. 自施設診断・自施設治療開始…当院にて診断並びに初回治療を開始した症例
- 3. 自施設診断・自施設治療継続…当院にて診断後、他院にて初回治療を開始し、
当院にて初回治療を継続した症例
- 4. 他施設診断・自施設治療開始…他院にて診断後、当院にて初回治療を開始した症例
- 5. 他施設診断・自施設治療継続…他院にて診断並びに初回治療を開始し、
当院にて初回治療を継続した症例
- 6. 初回治療終了後…他院にて初回治療終了後の症例
- 7. その他…その他（剖検で発見された症例など）

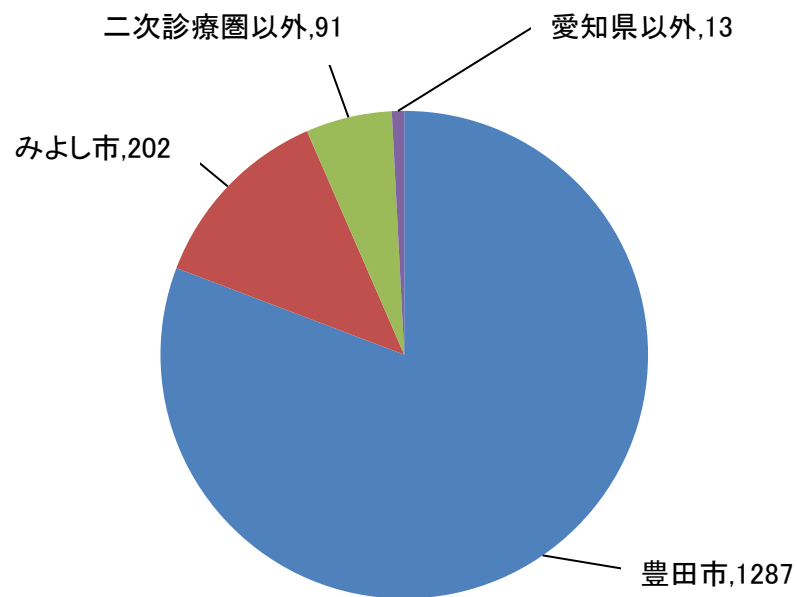
2016 年(平成 28 年) 院内がん登録状況

分類部位	2016 年(平成 28 年)				2015 年(平成 27 年)	
	男	女	計	割合	計	割合
頭頸部	31	10	41	2.6%	41	2.6%
食道	32	3	35	2.2%	31	2.0%
胃	124	57	181	11.4%	201	12.8%
結腸	114	75	189	11.9%	164	10.4%
直腸・肛門管	72	28	100	6.3%	95	6.0%
肝臓	44	17	61	3.8%	70	4.5%
胆のう・肝外胆管	24	18	42	2.6%	31	2.0%
膵臓	29	33	62	3.9%	57	3.6%
気管・肺・気管支	110	42	152	9.5%	142	9.0%
胸腺	2	1	3	0.2%	4	0.3%
胸膜	4	0	4	0.3%	1	0.1%
骨	0	0	0	0.0%	0	0.0%
白血病及び造血器疾患	39	34	73	4.6%	59	3.8%
皮膚	35	35	70	4.4%	61	3.9%
軟部組織	0	0	0	0.0%	1	0.1%
乳腺	1	153	154	9.7%	190	12.1%
外陰・膣	0	3	3	0.2%	4	0.3%
子宮頸部	0	18	18	1.1%	19	1.2%
子宮体部	0	19	19	1.2%	23	1.5%
卵巣・卵管	0	17	17	1.1%	19	1.2%
陰茎	1	0	1	0.1%	0	0.0%
前立腺	107	0	107	6.7%	122	7.8%
精巣	2	0	2	0.1%	6	0.4%
腎・腎盂・尿管	23	12	35	2.2%	30	1.9%
膀胱	62	12	74	4.6%	60	3.8%
眼部	1	0	0	0.1%	0	0.0%
頭蓋内腫瘍	12	17	29	1.8%	26	1.7%
脊髄・脳神経・他の中枢神経	0	0	0	0.0%	0	0.0%
甲状腺	15	16	31	1.9%	32	2.0%
副腎および他の内分泌器官	0	0	0	0.0%	0	0.0%
リンパ節	0	1	1	0.1%	0	0.0%
悪性リンパ腫	36	23	59	3.7%	60	3.8%
その他の部位	19	10	29	1.8%	24	1.5%
合計	939	654	1593	100.0%	1573	100.0%

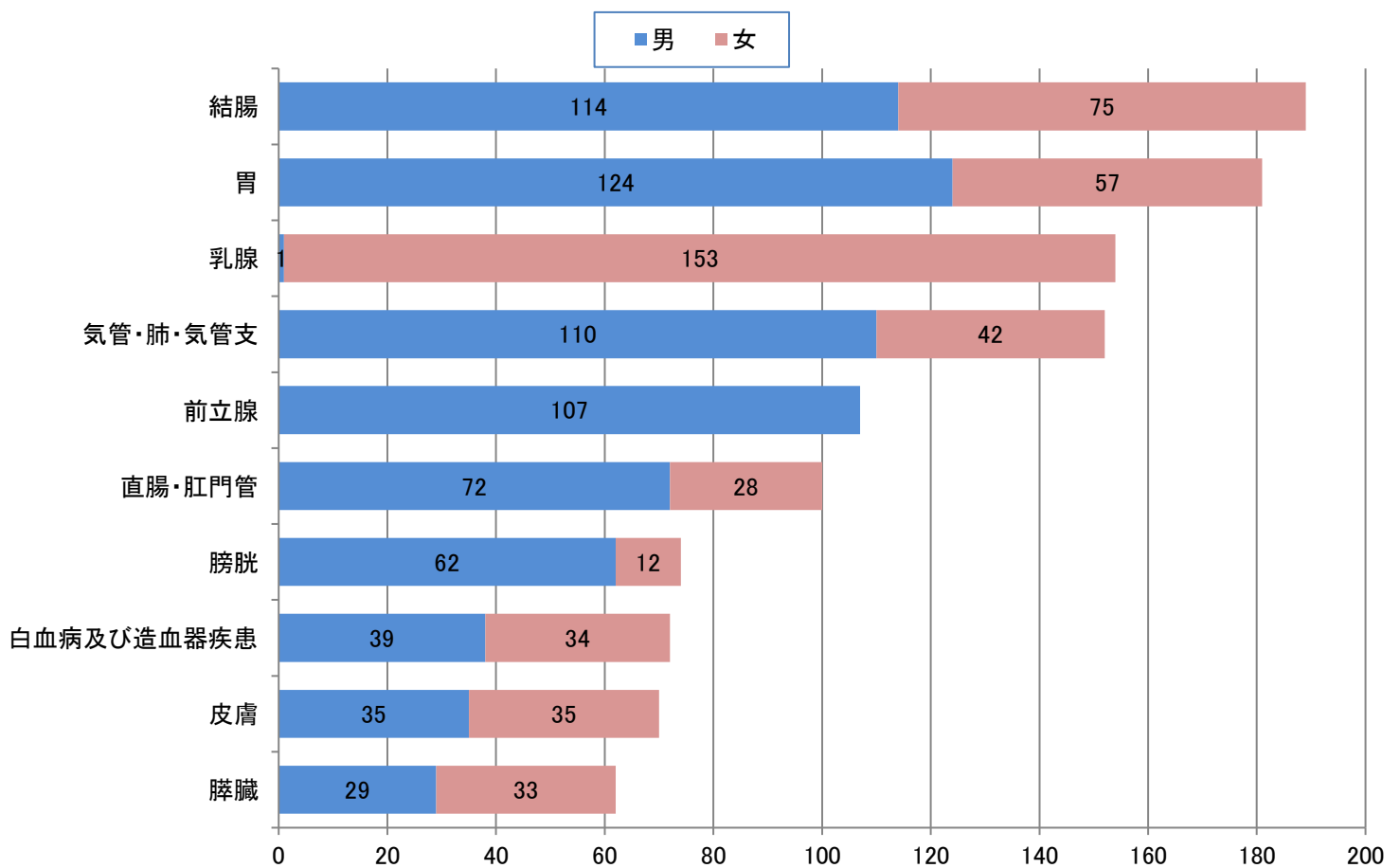
* 当院へがんに対する治療、診断、経過観察にて受診した患者を登録(頭蓋内腫瘍は良性の腫瘍も含む)

[▲目次に戻る](#)

2016 年(平成 28 年)がん登録地域別件数

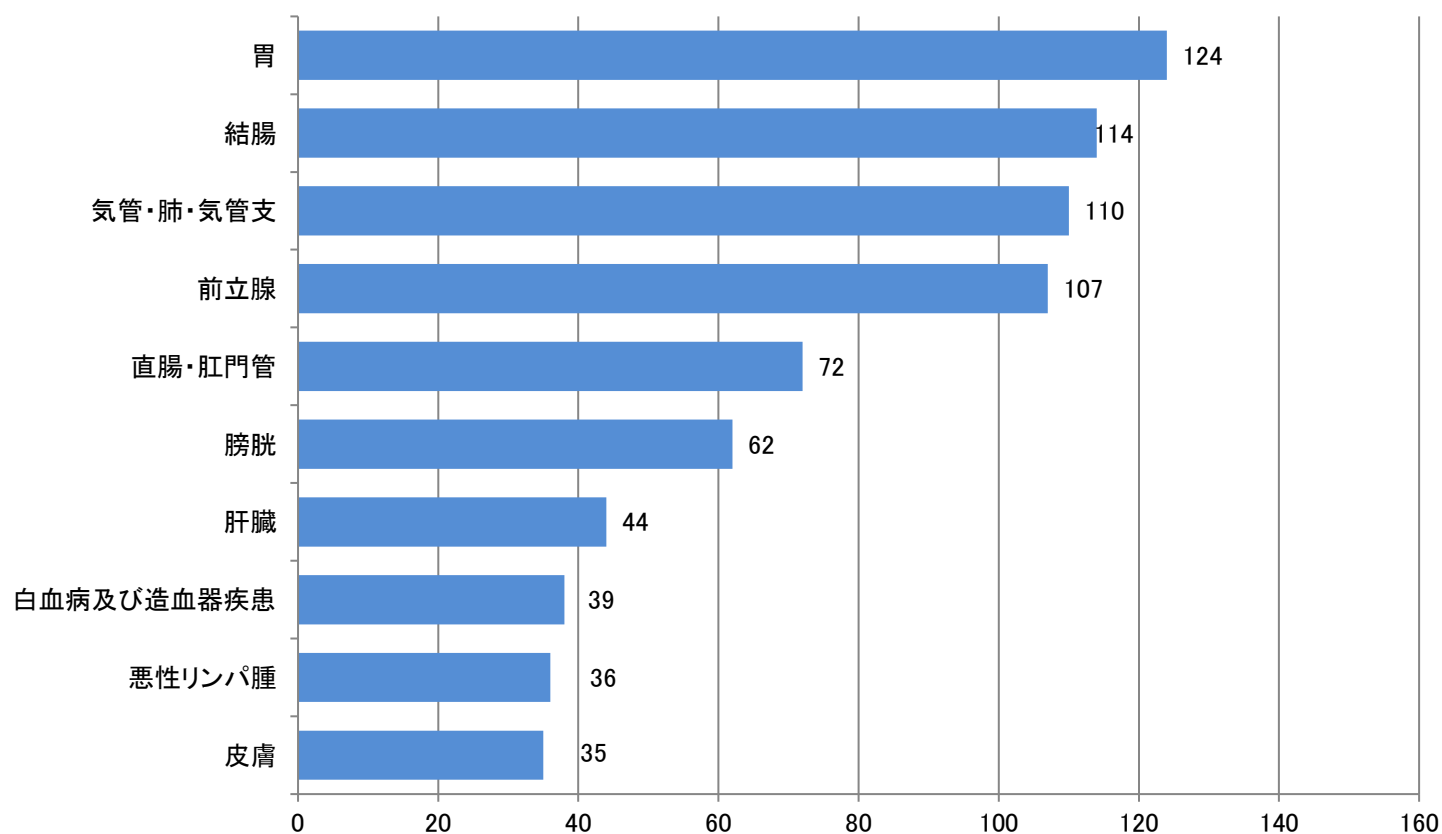


2016 年(平成 28 年)がん登録 男女別件数 上位 10 疾患

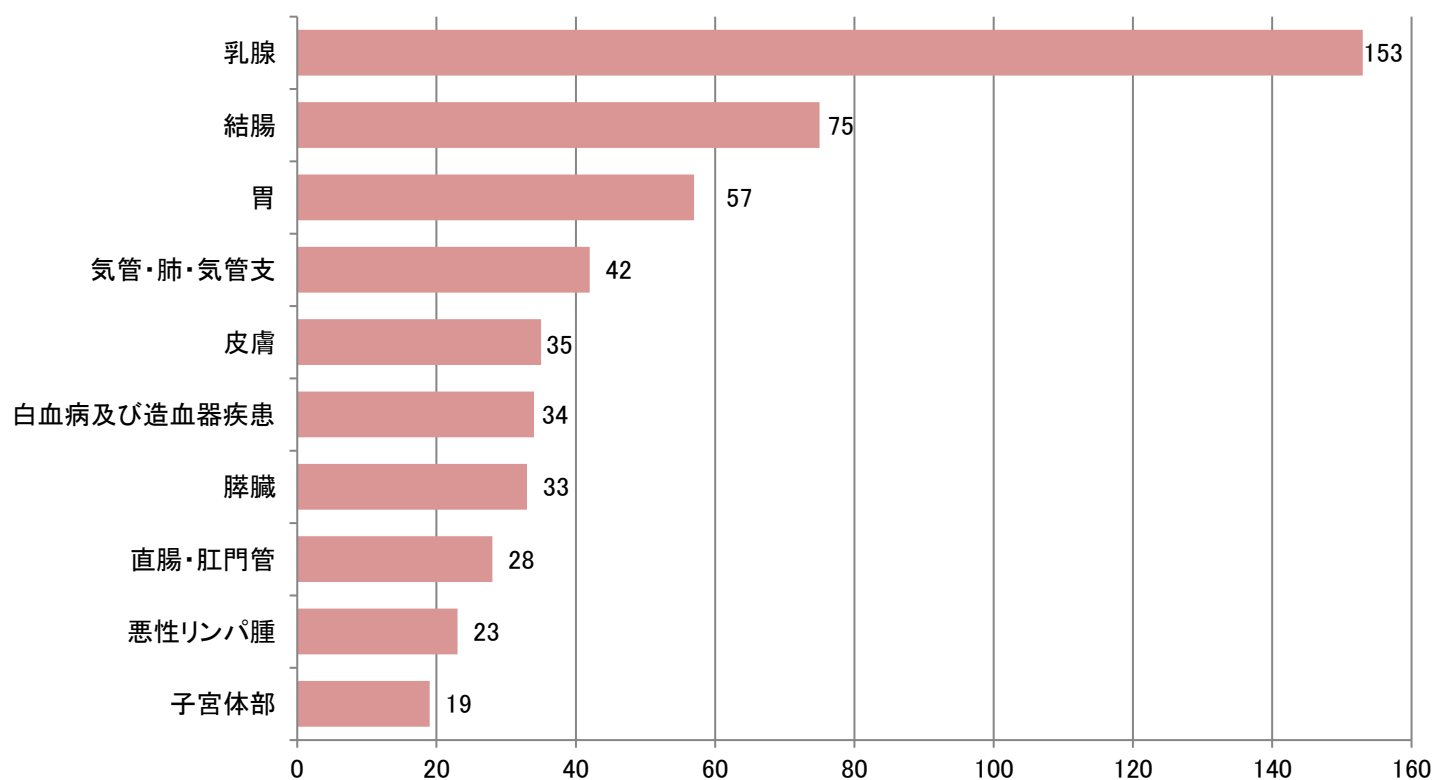


[▲目次に戻る](#)

(男性 上位 10 疾患)

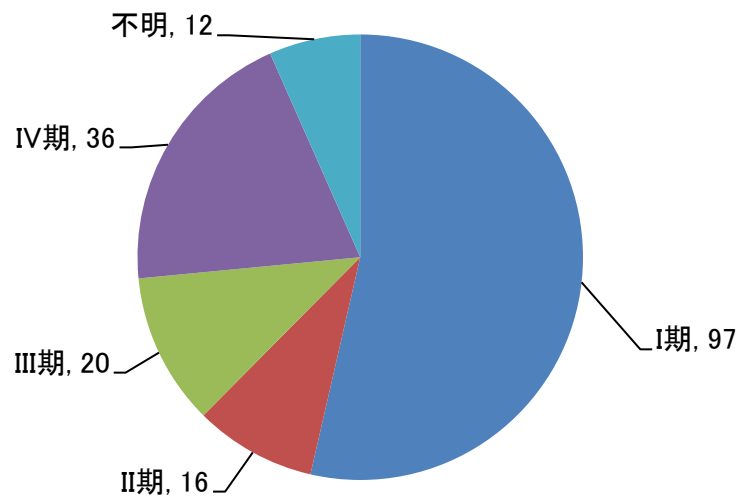


(女性 上位 10 疾患)



[▲目次に戻る](#)

2016 年(平成 28 年)がん登録 胃がん:181 件
(UICC 第 7 版 ステージ分類内訳)



(I 期)

- ・粘膜下層まで浸潤する腫瘍
または粘膜固有層または粘膜下層に浸潤し、2 個以下の所属リンパ節転移を認める腫瘍
または固有筋層まで浸潤し、所属リンパ節転移を認めない腫瘍

(II 期)

- ・粘膜固有層または粘膜下層に浸潤し、3 個以上の所属リンパ節転移を認める腫瘍
または固有筋層に浸潤し、1～6 個の所属リンパ節転移を認める腫瘍
または漿膜下層に浸潤し、2 個以下の所属リンパ節転移を認める腫瘍
または漿膜を穿孔する腫瘍

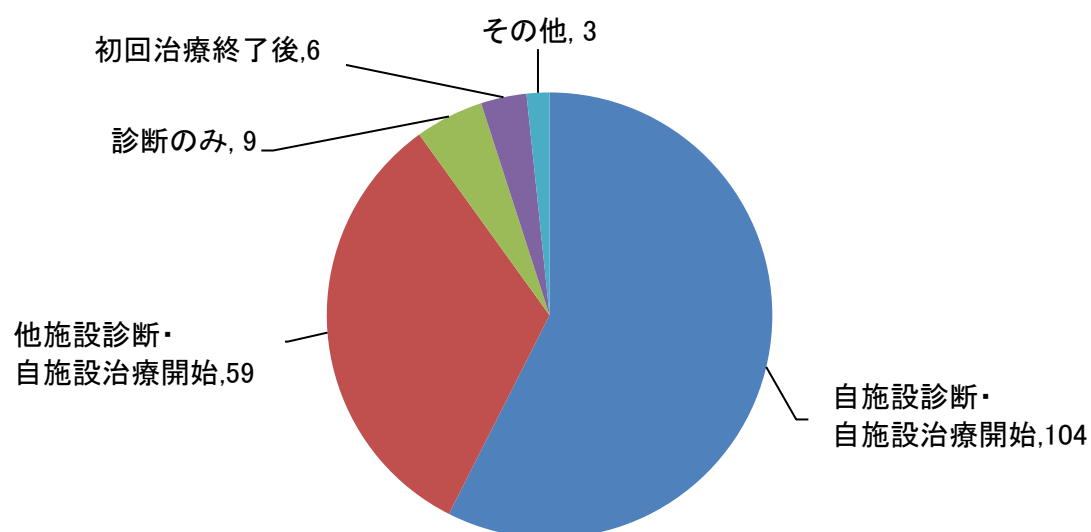
(III 期)

- ・固有筋層に浸潤し、7 個以上の所属リンパ節転移を認める腫瘍
または漿膜下層に浸潤し、3 個以上の所属リンパ節転移を認める腫瘍
または漿膜を穿孔し、1 個以上の所属リンパ節転移を認める腫瘍
または隣接臓器にまで浸潤している腫瘍

(IV 期)

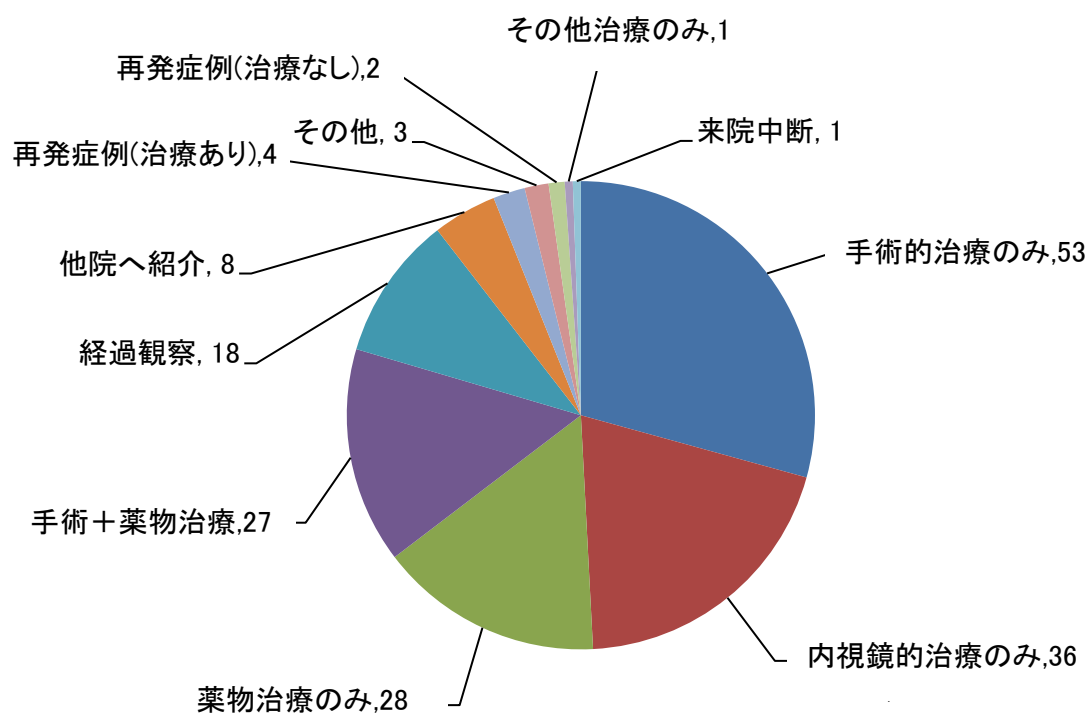
- ・遠隔転移あり

(症例区分別内訳)



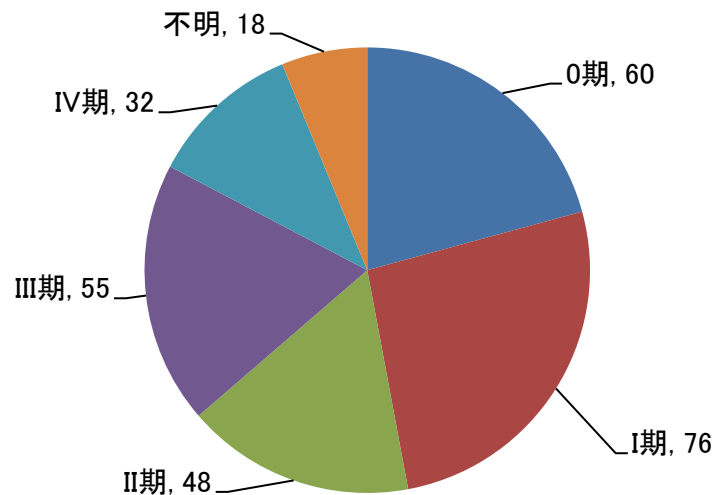
* 治療は、当院での経過観察も含む

(治療内容内訳)



[▲目次に戻る](#)

2016 年(平成 28 年)がん登録 大腸がん:289 件
(UICC 第 7 版 ステージ分類内訳)



(0期)

- ・上皮内腫瘍または粘膜固有層に浸潤する腫瘍

(I期)

- ・固有筋層まで浸潤する腫瘍

(II期)

- ・漿膜下層または結腸・直腸の周囲組織に浸潤する腫瘍、または直接他臓器または他組織に浸潤する腫瘍、または臓側腹膜を貫通する腫瘍

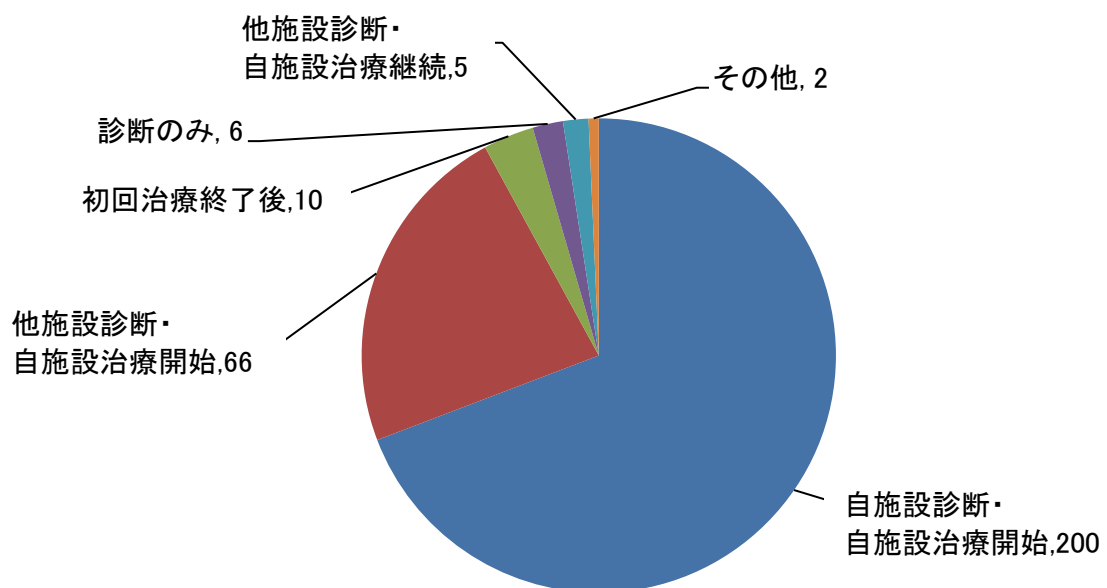
(III期)

- ・所属リンパ節転移を認める腫瘍

(IV期)

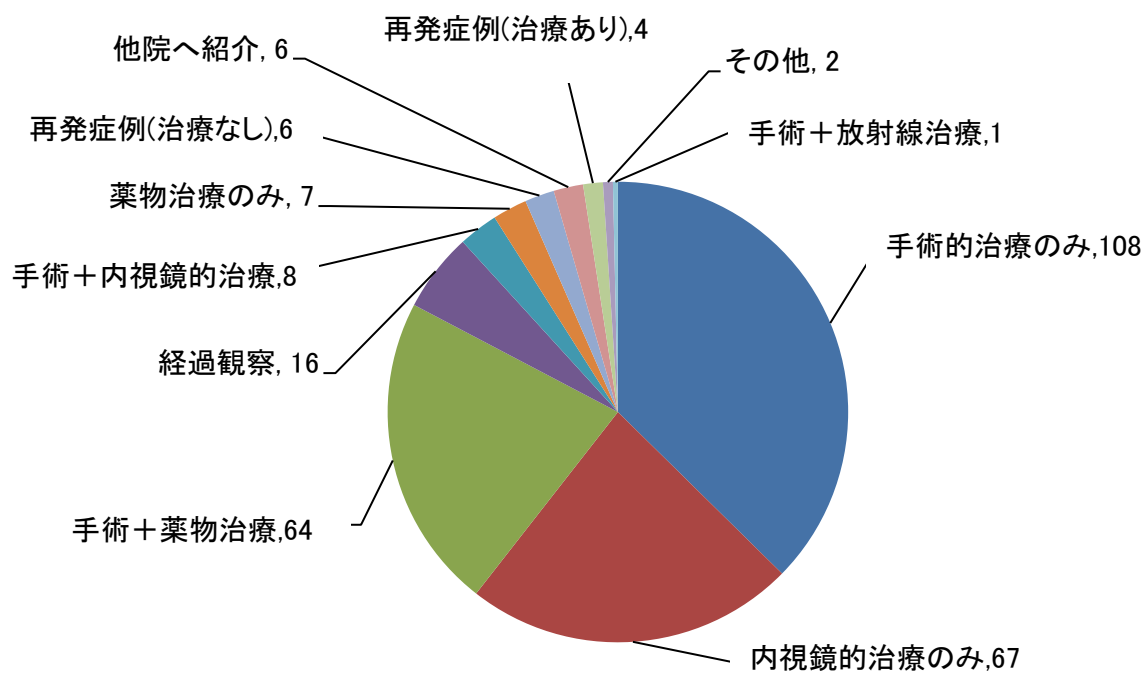
- ・遠隔転移あり

(症例区分別内訳)



* 治療は、当院での経過観察も含む

(治療内容内訳)

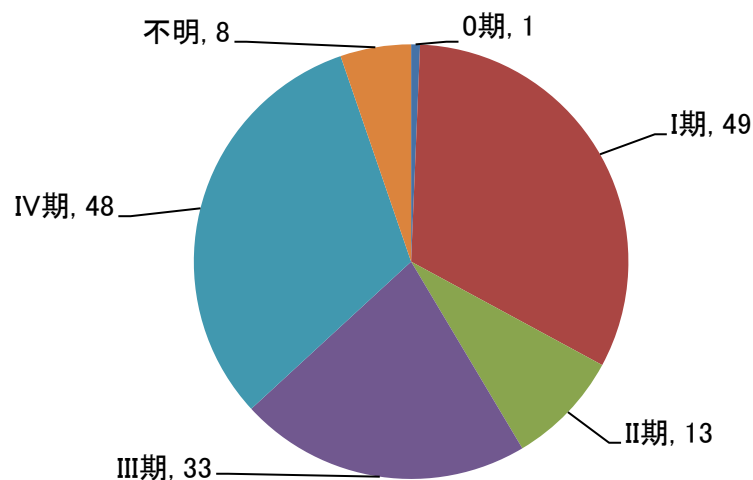


詳細部位内訳

	手術的治療のみ	内視鏡的治療のみ	手術+薬物治療	経過観察	手術+内視鏡的治療	薬物治療のみ	再発症例(治療なし)	他院へ紹介	再発症例(治療あり)	その他	手術+放射線治療	計
直腸・肛門管	36	23	23	4	1	4	3	3	0	2	1	100
結腸	72	44	41	12	7	3	3	3	4	0	0	189

[▲目次に戻る](#)

2016 年(平成 28 年)がん登録 肺がん:152 件
(UICC 第 7 版 ステージ分類内訳)



(0期)

- ・上皮内癌

(I 期)

- ・腫瘍径が 5 cm 以下、かつ所属リンパ節転移を認めない腫瘍または以下のいずれかの特徴を持つもの
 - ①臓側胸膜に浸潤する腫瘍
 - ②主気管支に浸潤がおよぶが、気管分岐部より 2 cm 以上離れている腫瘍
 - ③肺門に及ぶ無気肺あるいは閉塞性肺炎があるが、片肺全野に及ばない腫瘍

(II 期)

- ・I 期の条件で同側気管支周囲、同側肺門および肺内リンパ節転移を認める腫瘍
- ・腫瘍径が 5 cm を超えるが 7 cm 以下、かつ所属リンパ節転移を認めない腫瘍、もしくは同側気管支周囲、同側肺門および肺内リンパ節転移を認める腫瘍、または以下のいずれかの特徴を持つもの
 - ①臓側胸膜に浸潤する腫瘍
 - ②主気管支に浸潤がおよぶが、気管分岐部より 2 cm 以上離れている腫瘍
 - ③肺門に及ぶ無気肺あるいは閉塞性肺炎があるが、片肺全野に及ばない腫瘍
- ・腫瘍径が 7 cm をこえ、所属リンパ節転移を認めない腫瘍または以下のいずれかの特徴を持つもの
 - ①胸壁、横隔膜、縦隔胸膜、壁側心膜のいずれかに直接浸潤する腫瘍
 - ②無気肺・閉塞性肺炎が片肺全野に及ぶもの
 - ③原発と同一肺葉に不連続の副腫瘍結節のあるもの

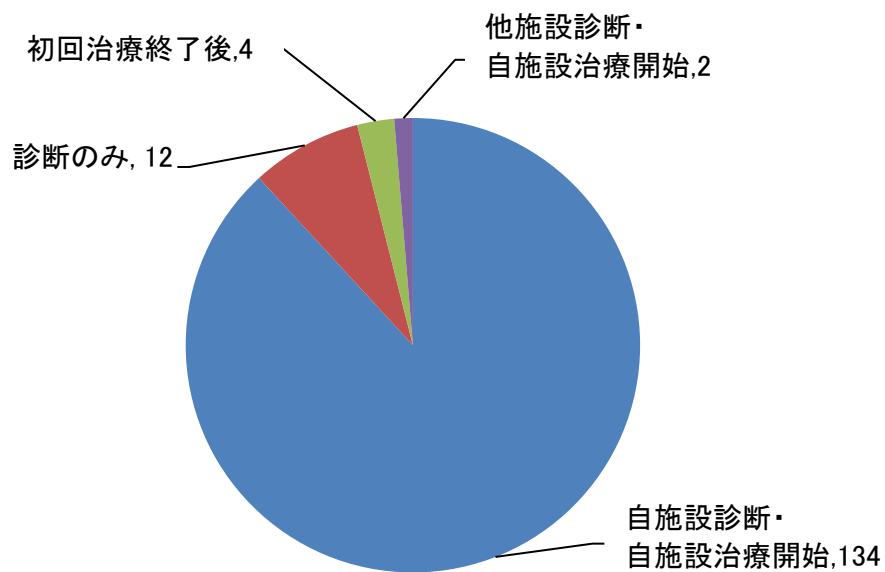
(III 期)

- ・大きさとは無関係に、縦隔、心臓、大血管、気管、反回神経、食道、椎体、気管支分岐部に浸潤の及ぶ腫瘍
- ・原発と同側別肺葉に不連続の副腫瘍結節のある腫瘍
- ・同側縦隔リンパ節転移、および/または下気管支分岐部リンパ節転移を認める腫瘍
- ・対側縦隔、対側肺門、同側または対側斜角筋前、鎖骨上のリンパ節転移を認める腫瘍
- ・腫瘍径が 7 cm をこえ、かつ同側気管支周囲、および/または同側肺門および肺内リンパ節の転移を認める腫瘍または以下のいずれかの特徴を持つもの
 - ①胸壁、横隔膜、縦隔胸膜、壁側心膜のいずれかに直接浸潤する腫瘍
 - ②無気肺・閉塞性肺炎が片肺全野に及ぶもの
 - ③原発と同一肺葉に不連続の副腫瘍結節のあるもの

(IV 期)

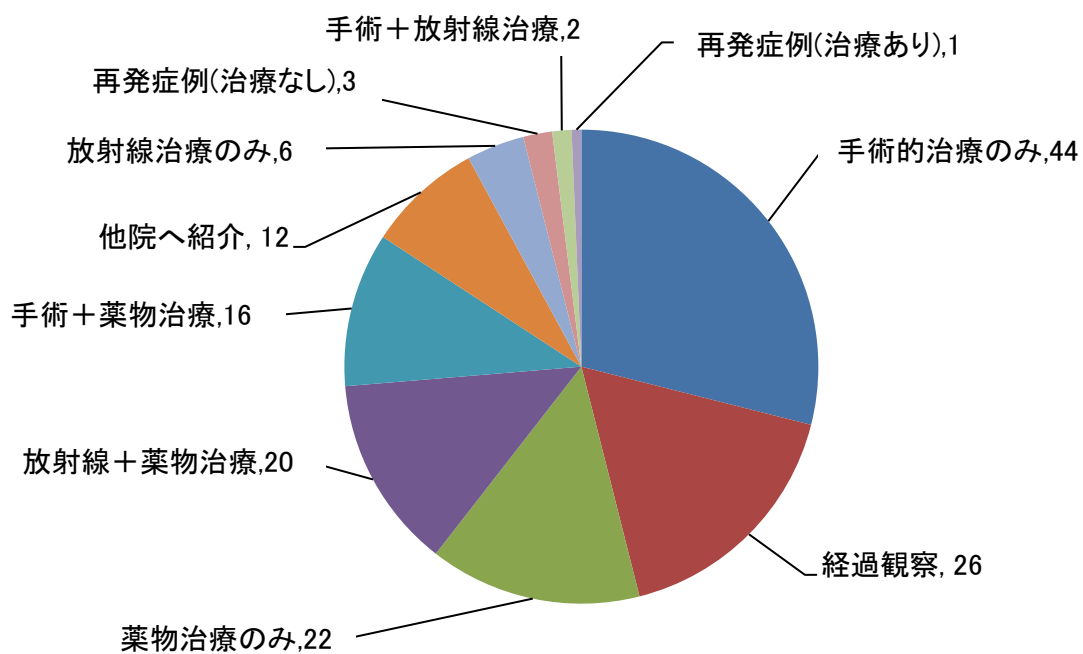
- ・遠隔転移あり

(症例区分別内訳)



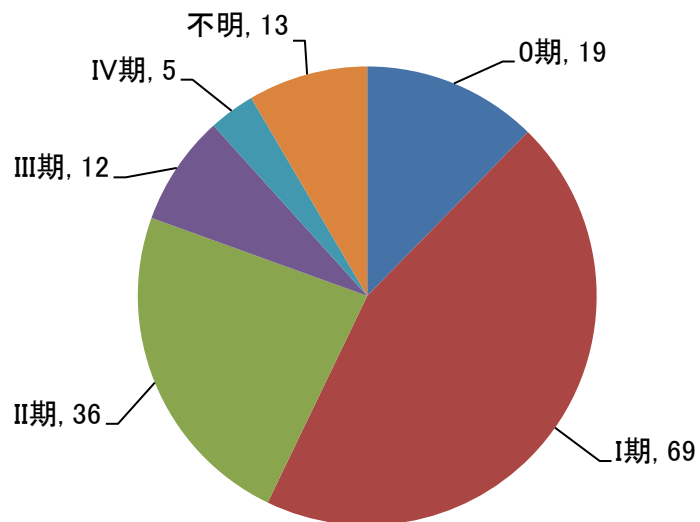
* 治療は、当院での経過観察も含む

(治療内容内訳)



[▲目次に戻る](#)

2016 年(平成 28 年)がん登録 乳がん:154 件
(UICC 第 7 版 ステージ分類内訳)



(0期)

- ・乳管内癌

(I 期)

- ・腫瘍最大径が 2 cm以下の腫瘍

(II 期)

- ・腫瘍最大径が 5 cm以下の腫瘍
- ・可動性の腋窩リンパ節転移を認める腫瘍
- ・腫瘍最大径が 5 cm以上で、所属リンパ節転移を認めない腫瘍

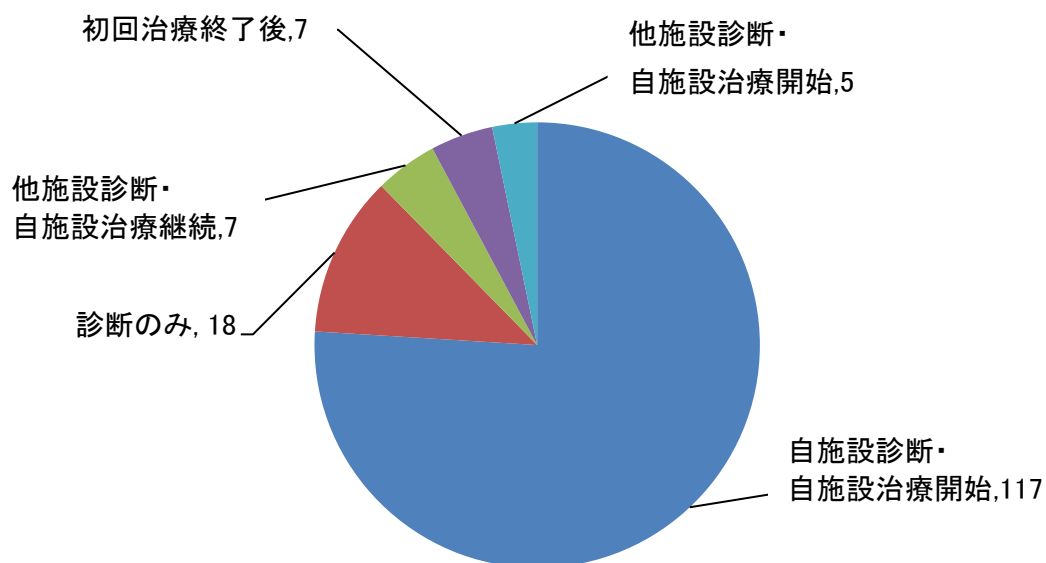
(III 期)

- ・腫瘍最大径が 5 cm以上で、可動性の腋窩リンパ節転移を認める腫瘍
- ・固定した腋窩リンパ節転移または臨床的に明らかな胸骨傍リンパ節転移を認める腫瘍
- ・胸壁または皮膚へ直接進展する腫瘍、または腋窩リンパ節転移もしくは臨床的に明らかな胸骨傍リンパ節転移を伴う腫瘍
- ・鎖骨リンパ節転移、または胸骨傍および腋窩リンパ節転移を認める腫瘍

(IV期)

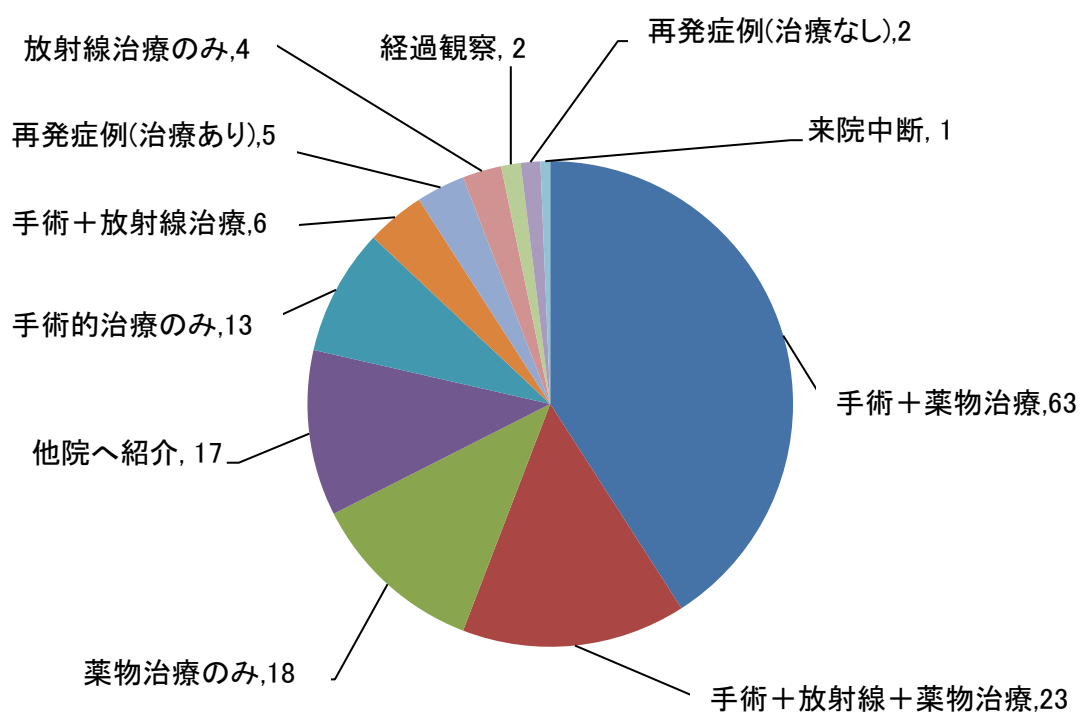
- ・遠隔転移あり

(症例区分別内訳)



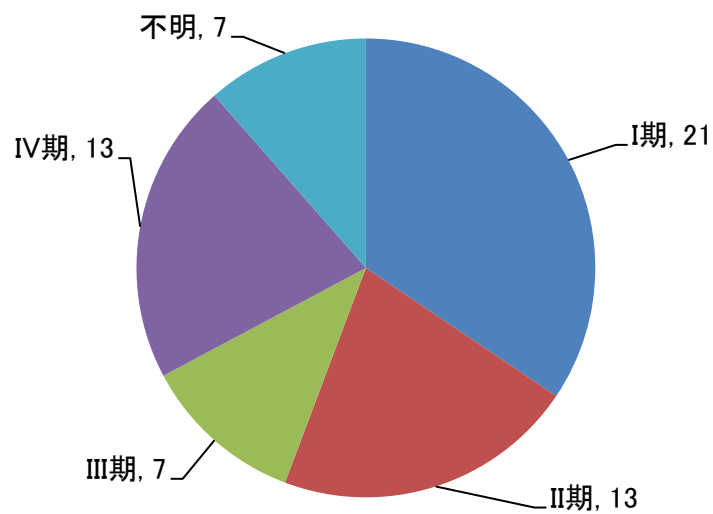
* 治療は、当院での経過観察も含む

(治療内容内訳)



[▲目次に戻る](#)

2016 年(平成 28 年)がん登録 肝がん:61 件
(UICC 第 7 版 ステージ分類内訳)



(I 期)

- ・単発で脈管浸潤のない腫瘍

(II 期)

- ・単発で脈管浸潤を伴う腫瘍
または、多発性で最大径が 5 cm 以下の腫瘍

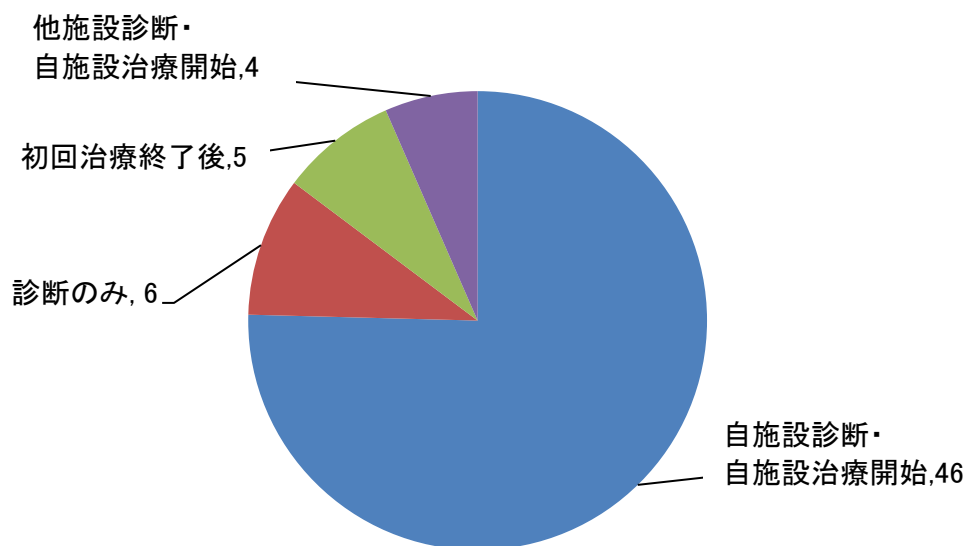
(III 期)

- ・多発性で最大径が 5 cm をこえる腫瘍
または、門脈または肝動脈の大分岐に浸潤した腫瘍
- ・胆嚢以外の隣接臓器に直接浸潤する腫瘍
または、肝癌破裂を起こした腫瘍

(IV 期)

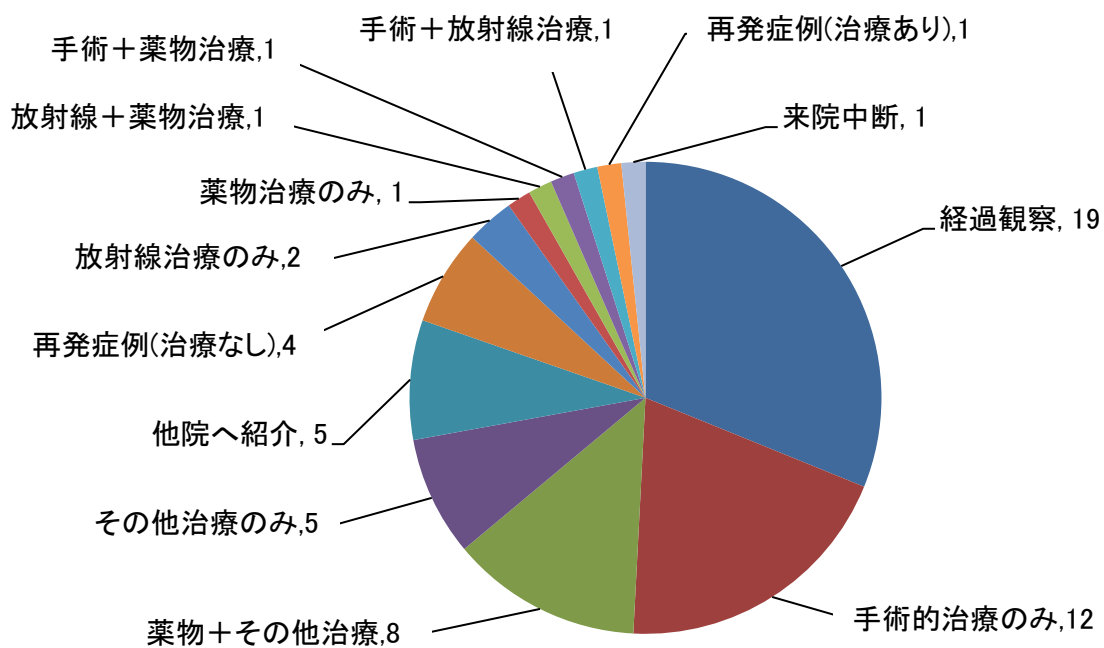
- ・所属リンパ節転移あり
- ・遠隔転移あり

(症例区分別内訳)



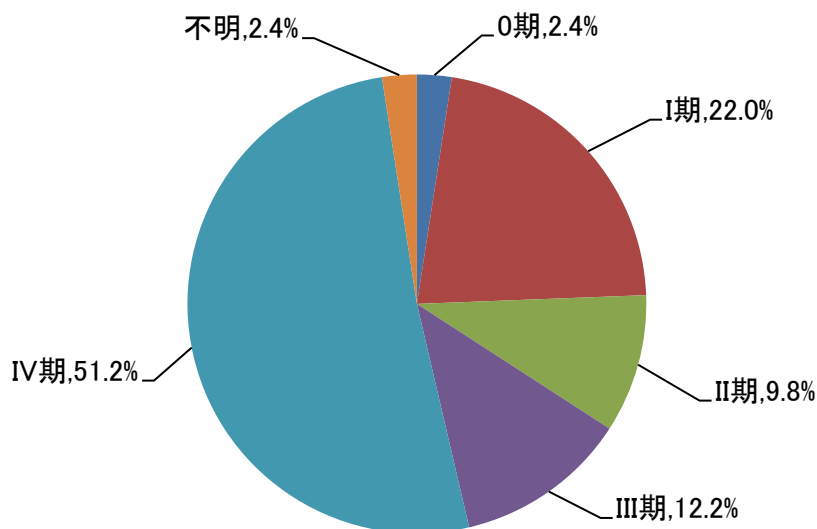
* 治療は、当院での経過観察も含む

(治療内容内訳)



[▲目次に戻る](#)

2016 年(平成 28 年)がん登録 頭頸部:41 件
(UICC 第 7 版 ステージ分類内訳)



*** 口唇および口腔**

(0期)

- ・上皮内癌

(I 期)

- ・最大径が 2cm 以下の腫瘍

(II 期)

- ・最大径が 2cm をこえるが 4cm 以下の腫瘍

(III期)

- ・I と II 期の条件で、最大径が 3cm 以下の同側単発性リンパ節転移を認める腫瘍
- ・最大径が 4cm をこえる腫瘍で、所属リンパ節転移を認めないもの、あるいは最大径が 3cm 以下の同側性リンパ節転移を認める腫瘍

(IV期)

- ・口唇: 骨髓質、下歯槽神経、口腔底、皮膚(顎または外鼻)に浸潤する腫瘍
- ・口腔: 骨髓質、舌深層の筋肉/外舌筋(オトガイ舌筋、舌骨舌筋、口蓋舌筋、茎突舌筋)、上顎洞、顔面の皮膚に浸潤する腫瘍
- ・咀嚼筋間隙、翼状突起、または頭蓋底に浸潤する腫瘍、または内頸動脈を全周性に取り囲む腫瘍
- ・最大径が 3cm をこえるリンパ節転移を認める腫瘍
- ・遠隔転移あり

*** 鼻腔および副鼻腔(鼻腔・篩骨洞)**

(0期)

- ・上皮内癌

(Ⅰ期)

- ・骨浸潤の有無に関係なく、鼻腔または篩骨洞の1亜部位に局限する腫瘍

(Ⅱ期)

- ・骨浸潤の有無に関係なく、鼻腔または篩骨洞の2つの亜部位に浸潤する腫瘍、または鼻腔および篩骨洞の両方に浸潤する腫瘍

(Ⅲ期)

- ・ⅠとⅡ期の条件で、最大径が3cm以下の同側単発性リンパ節転移を認める腫瘍
- ・眼窩内側壁または眼窩底、上顎洞、口蓋、篩板のいずれかに浸潤する腫瘍で所属リンパ節転移を認めないもの、あるいは最大径が3cm以下の同側単発性リンパ節転移を認める腫瘍

(Ⅳ期)

- ・眼窩内容前部、外鼻の皮膚、頬部皮膚、前頭蓋窩(軽度進展)、翼状突起、蝶形洞、前頭洞のいずれかに浸潤する腫瘍
- ・眼窩尖端、硬膜、脳、中頭蓋窩、三叉神経第二枝以外の脳神経、上咽頭、斜台のいずれかに浸潤する腫瘍
- ・最大径が3cmをこえるリンパ節転移を認める腫瘍
- ・遠隔転移あり

*** 中咽頭**

(0期)

- ・上皮内癌

(Ⅰ期)

- ・最大径が2cm以下の腫瘍

(Ⅱ期)

- ・最大径が2cmをこえるが4cm以下の腫瘍

(Ⅲ期)

- ・ⅠとⅡ期の条件で、最大径が3cm以下の同側単発性リンパ節転移を認める腫瘍
- ・最大径が4cmをこえる腫瘍、または喉頭蓋舌面に進展する腫瘍で所属リンパ節転移を認めないもの、あるいは最大径が3cm以下の同側単発性リンパ節転移を認める腫瘍

(Ⅳ期)

- ・喉頭、舌深層の筋肉/外舌筋(オトガイ舌筋、舌骨舌筋、口蓋舌筋、茎突舌筋)、内側翼突筋、硬口蓋、および下顎骨のいずれかに浸潤する腫瘍
- ・外側翼突筋、翼状突起、上咽頭側壁、頭蓋底のいずれかに浸潤する腫瘍、または頸動脈を全周性に取り囲む腫瘍
- ・最大径が3cmをこえるリンパ節転移を認める腫瘍
- ・遠隔転移あり

*** 上咽頭**

(0期)

- ・上皮内癌

(Ⅰ期)

- ・上咽頭に限局する腫瘍または中咽頭および/または鼻腔に進展する腫瘍

(Ⅱ期)

- ・Ⅰ期の条件で、鎖骨上窩より上方の片側頸部リンパ節転移、および/または片側/両側咽頭後リンパ節転移で最大径が 6cm 以下を認める腫瘍
- ・傍咽頭間隙への進展をともなう腫瘍で所属リンパ節転移を認めないもの、あるいは鎖骨上窩より上方の片側頸部リンパ節転移、および/または最大径が 6cm 以下の片側/両側咽頭後リンパ節転移を認める腫瘍

(Ⅲ期)

- ・ⅠとⅡ期の条件で、最大径が 6cm 以下の鎖骨上窩より上方の両側頸部リンパ節転移を認める腫瘍
- ・頭蓋底骨組織および/または副鼻腔に浸潤する腫瘍で所属リンパ節転移を認めないもの、あるいは鎖骨上窩より上方の片側頸部リンパ節転移、および/または最大径が 6cm 以下の片側/両側咽頭後リンパ節転移を認める腫瘍、あるいは最大径が 6cm 以下の鎖骨上窩より上方の両側頸部リンパ節転移を認める腫瘍

(Ⅳ期)

- ・頭蓋内に進展する腫瘍/およびまたは脳神経をとり囲む腫瘍、下咽頭、眼窩に浸潤する腫瘍、または側頭下窩/咀嚼筋間隙の進展を伴う腫瘍
- ・最大径が 6cm をこえる頸部リンパ節転移、または鎖骨上窩への頸部リンパ節転移を認める腫瘍
- ・遠隔転移あり

*** 下咽頭**

(0期)

- ・上皮内癌

(Ⅰ期)

- ・下咽頭の 1 亜部位に限局し、および/または最大径が 2cm 以下の腫瘍

(Ⅱ期)

- ・片側喉頭の固定がなく、下咽頭の 1 亜部位をこえるか、隣接部位に浸潤する腫瘍、または最大径が 2cm をこえるが 4cm 以下の腫瘍

(Ⅲ期)

- ・ⅠとⅡ期の条件で、最大径が 3cm 以下の同側単発性リンパ節転移を認める腫瘍
- ・最大径が 4cm をこえるか、または片側喉頭の固定する腫瘍、または食道へ進展する腫瘍で、所属リンパ節転移を認めないもの、あるいは最大径が 3cm 以下の同側単発性リンパ節転移を認める腫瘍

(Ⅳ期)

- ・甲状軟骨、輪状軟骨、舌骨、甲状腺、頸部正中軟部組織のいずれかに浸潤する腫瘍
- ・椎前筋膜、縦隔に浸潤する腫瘍、または頸動脈を全周性に取り囲む腫瘍
- ・最大径が 3cm をこえるリンパ節転移を認める腫瘍
- ・遠隔転移あり

* 声門

(0期)

- ・上皮内癌

(Ⅰ期)

- ・声帯運動が正常で、一側声帯に限局、または両側声帯に浸潤する腫瘍

(Ⅱ期)

- ・声門上部、および/または声門下部に進展する腫瘍、および/または声帯運動の制限を伴う腫瘍

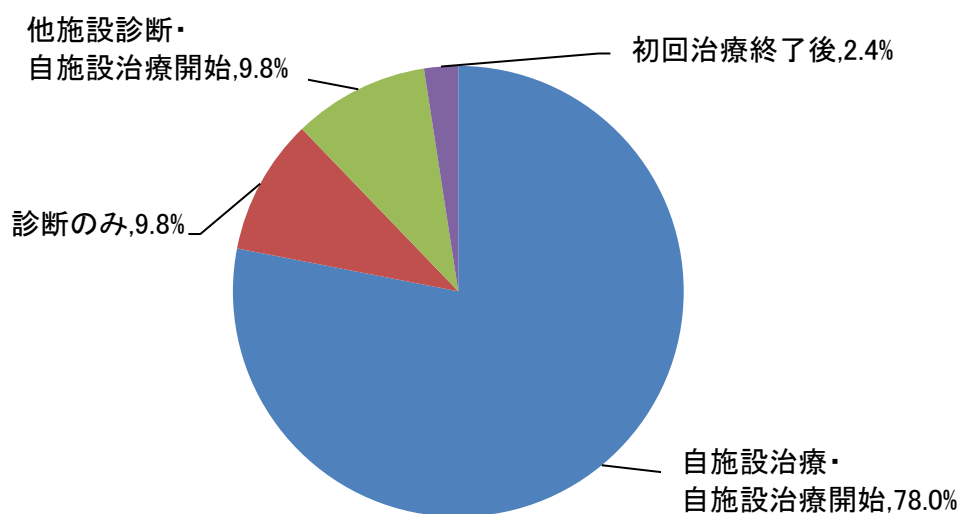
(Ⅲ期)

- ・ⅠとⅡ期の条件で、最大径が 3cm 以下の同側単発性リンパ節転移を認める腫瘍
- ・声帯が固定し喉頭に限局するもの、および/または声門周囲腔に浸潤する腫瘍、および/または甲状軟骨のわずかなびらんを伴う腫瘍で、所属リンパ節転移を認めないもの、あるいは最大径が 3cm 以下の同側単発性リンパ節転移を認める腫瘍

(Ⅳ期)

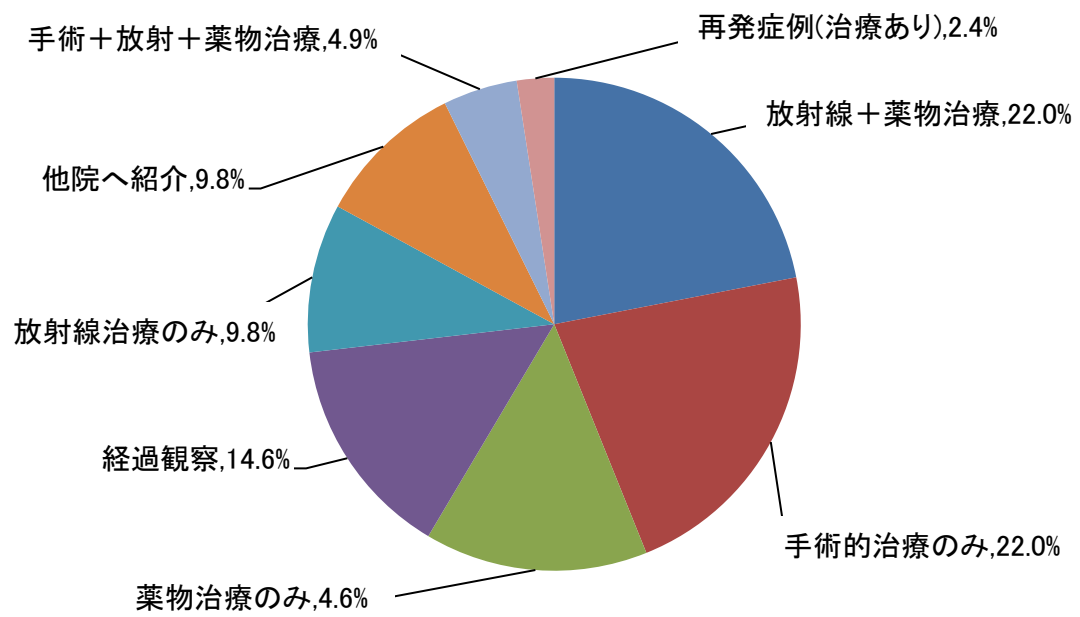
- ・甲状軟骨を破って浸潤する腫瘍、または喉頭蓋、気管、舌深層の筋肉/外舌筋を含む頸部軟部組織、舌骨下筋群、甲状腺、食道に浸潤する腫瘍
- ・椎前間隙、縦隔に浸潤する腫瘍、または頸動脈を全周性に取り囲む腫瘍
- ・最大径が 3cm をこえるリンパ節転移を認める腫瘍
- ・遠隔転移あり

(症例区分別内訳)



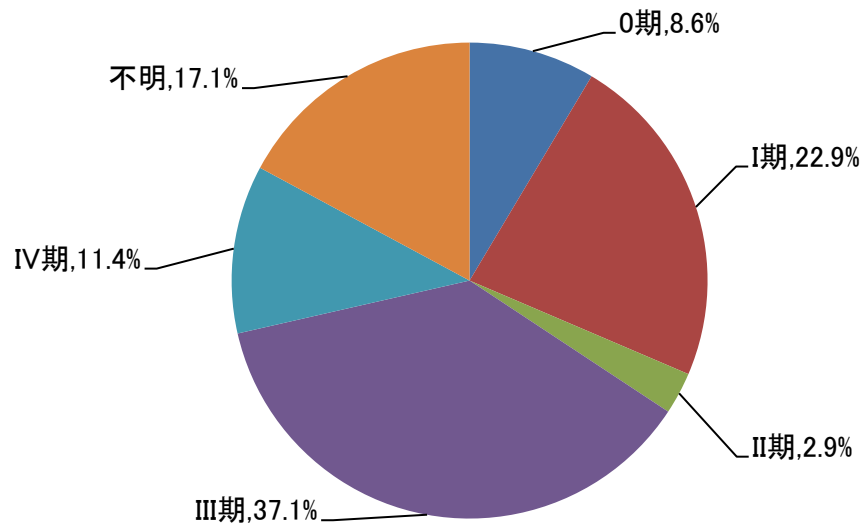
* 治療は、当院での経過観察も含む

(治療内容内訳)



[▲目次に戻る](#)

2016 年(平成 28 年)がん登録 食道:35 件
(UICC 第 7 版 ステージ分類内訳)



(0期)

- ・上皮内癌

(I期)

- ・粘膜固有層、粘膜筋板、または粘膜下層に浸潤する腫瘍
- ・固有筋層に浸潤する腫瘍

(II期)

- ・外膜に浸潤する腫瘍
- ・I期の条件に、1～2個の所属リンパ節転移を認める腫瘍

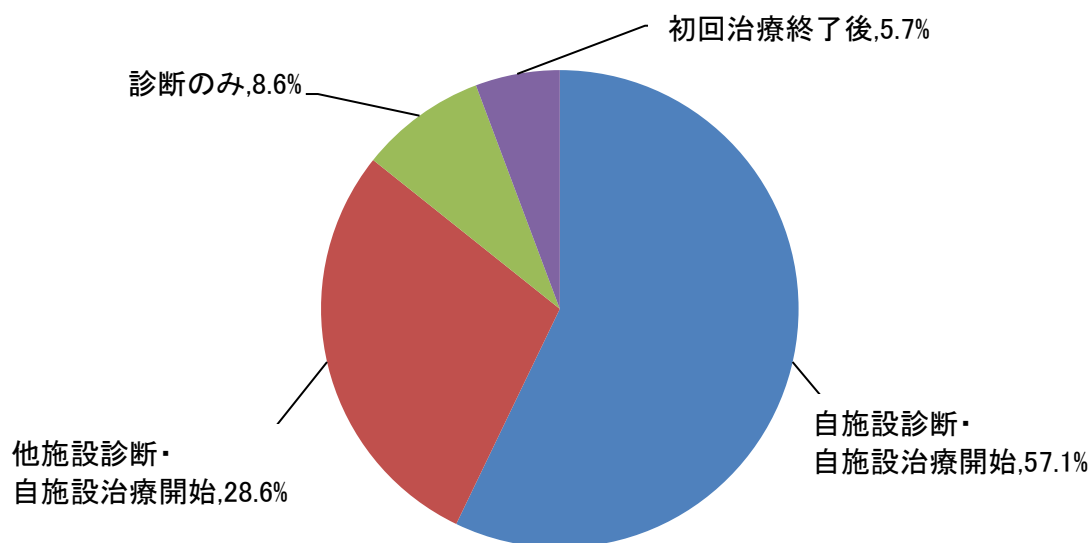
(III期)

- ・3個以上の所属リンパ節転移を認める腫瘍
- ・胸膜、心膜、横隔膜に浸潤する腫瘍
- ・大動脈、椎体、気管など他の周囲臓器に浸潤する腫瘍
- ・外膜に浸潤する腫瘍で、1～2個の所属リンパ節転移を認める腫瘍

(IV期)

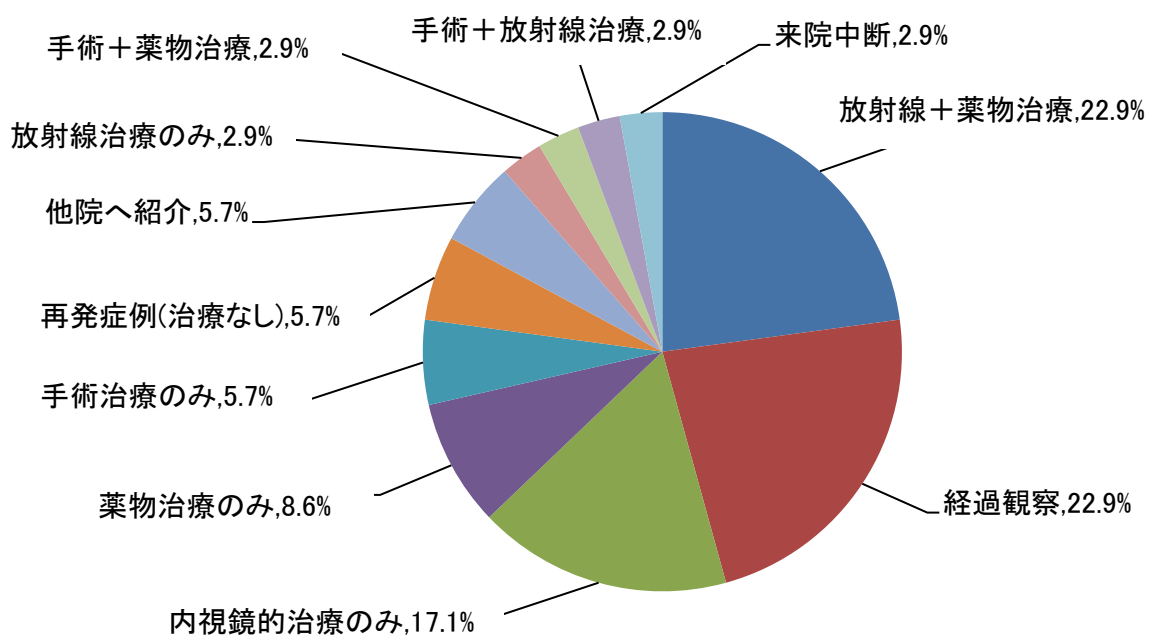
- ・遠隔転移あり

(症例区分別内訳)



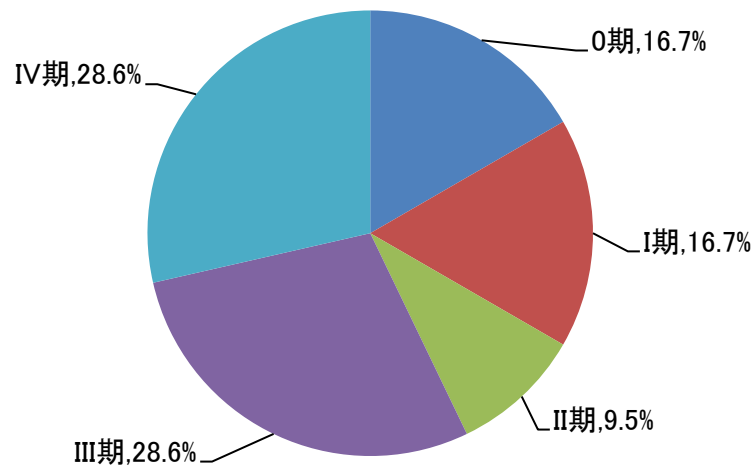
* 治療は、当院での経過観察も含む

(治療内容内訳)



[▲目次に戻る](#)

2016 年(平成 28 年)がん登録 胆のう・肝外胆管:42 件
(UICC 第 7 版 ステージ分類内訳)



*** 胆のう**

(0期)

- ・上皮内癌

(I 期)

- ・粘膜固有層または筋層に浸潤する腫瘍

(II 期)

- ・筋層周囲の結合組織に浸潤するが、漿膜をこえた進展や肝臓への進展のない腫瘍

(III 期)

- ・漿膜(臓側胸膜)を貫通した腫瘍、肝臓および/または肝臓以外の 1 つの隣接臓器(胃、十二指腸、結腸、膵臓、大網、肝外胆管)に直接進展する腫瘍
- ・I ~ III期の条件に、所属リンパ節転移を認める腫瘍

(IV期)

- ・門脈本幹または肝動脈に浸潤する腫瘍、あるいは肝臓以外の 2 つ以上の隣接臓器に浸潤する腫瘍
- ・遠隔転移あり

*** 肝外胆管(肝門部)**

(0期)

- ・上皮内癌

(Ⅰ期)

- ・胆管に限局する腫瘍で、筋層または線維組織まで進展する腫瘍

(Ⅱ期)

- ・胆管壁をこえて周囲脂肪組織に浸潤する腫瘍、あるいは隣接肝実質に浸潤する腫瘍

(Ⅲ期)

- ・門脈または肝動脈の片側の分枝に浸潤する腫瘍
- ・Ⅰ～Ⅲ期の条件に、所属リンパ節転移を認める腫瘍

(Ⅳ期)

- ・門脈本幹、門脈の両側分枝、固有肝動脈、または左右両側の胆管二次分枝に浸潤する腫瘍、あるいは片側胆管二次分枝と反対側の門脈または肝動脈に浸潤する腫瘍
- ・遠隔転移あり

*** 肝外胆管(遠位)**

(0期)

- ・上皮内癌

(Ⅰ期)

- ・胆管壁に限局、もしくはこえて浸潤する腫瘍

(Ⅱ期)

- ・胆嚢、肝臓、膵臓、十二指腸、または他の臓器に直接浸潤する腫瘍
- ・ⅠとⅡ期の条件に、所属リンパ節転移を認める腫瘍

(Ⅲ期)

- ・腹腔動脈幹または上腸間膜動脈に浸潤する腫瘍

(Ⅳ期)

- ・遠隔転移あり

*** ファーター乳頭部**

(0期)

- ・上皮内癌

(Ⅰ期)

- ・Vater 膨大部、または Oddi 括約筋に限局する腫瘍
- ・十二指腸壁に浸潤する腫瘍

(Ⅱ期)

- ・膵臓に浸潤する腫瘍
- ・Ⅰ期の条件に、所属リンパ節転移を認める腫瘍

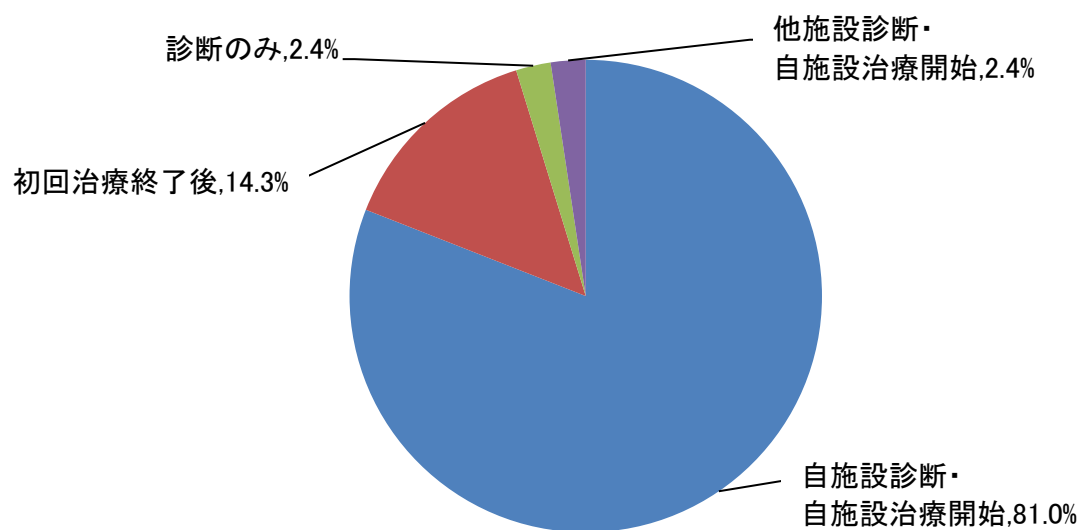
(Ⅲ期)

- ・膵臓周囲軟部組織、または他の隣接臓器に浸潤する腫瘍

(Ⅳ期)

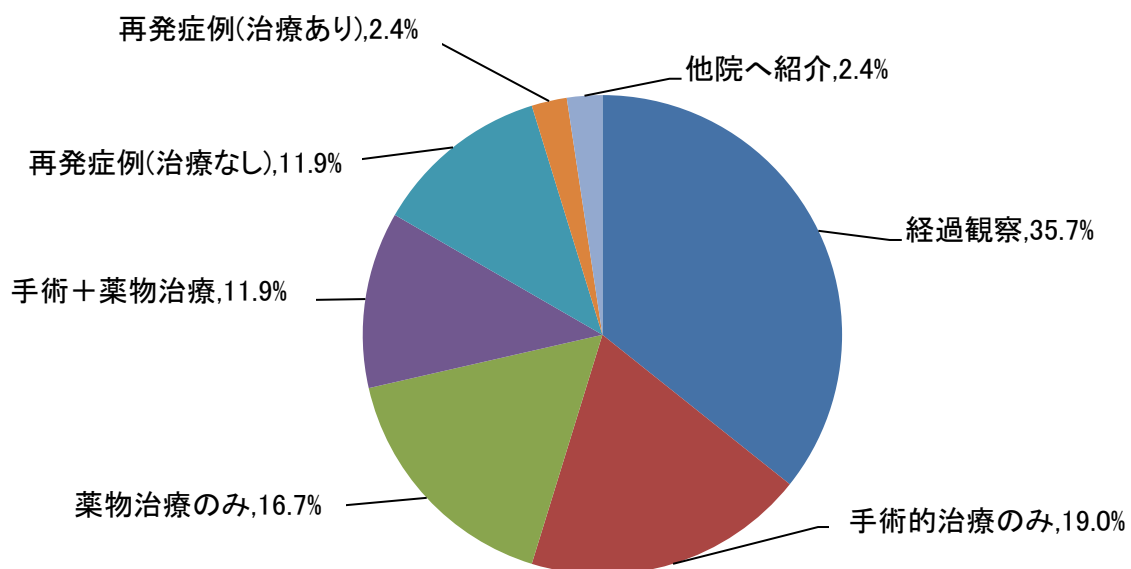
- ・遠隔転移あり

(症例区分別内訳)



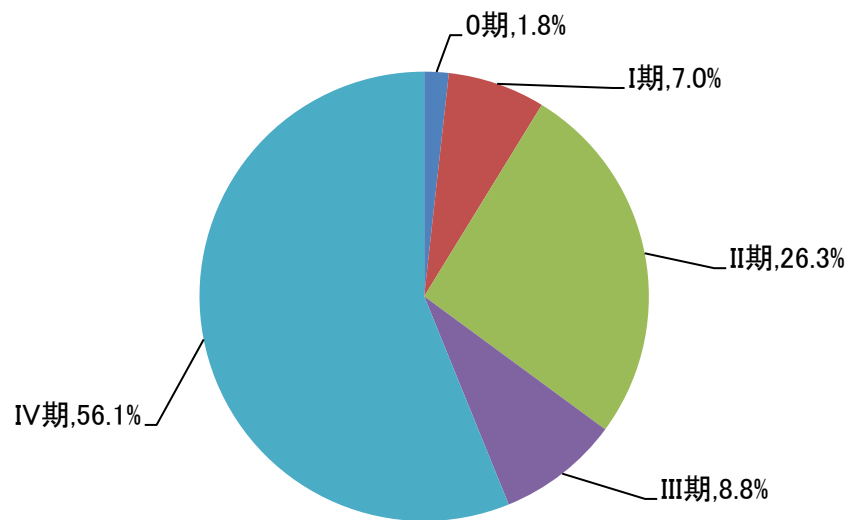
* 治療は、当院での経過観察も含む

(治療内容内訳)



[▲目次に戻る](#)

2016 年(平成 28 年)がん登録 膵臓:62 件
(UICC 第 7 版 ステージ分類内訳)



(0 期)

- ・上皮内癌

(I 期)

- ・膵臓内に限局する腫瘍

(II 期)

- ・膵臓外に進展するが、腹腔動脈幹または上腸間膜動脈に浸潤を伴わない腫瘍
- ・ I 期の条件に、所属リンパ節転移を認める腫瘍

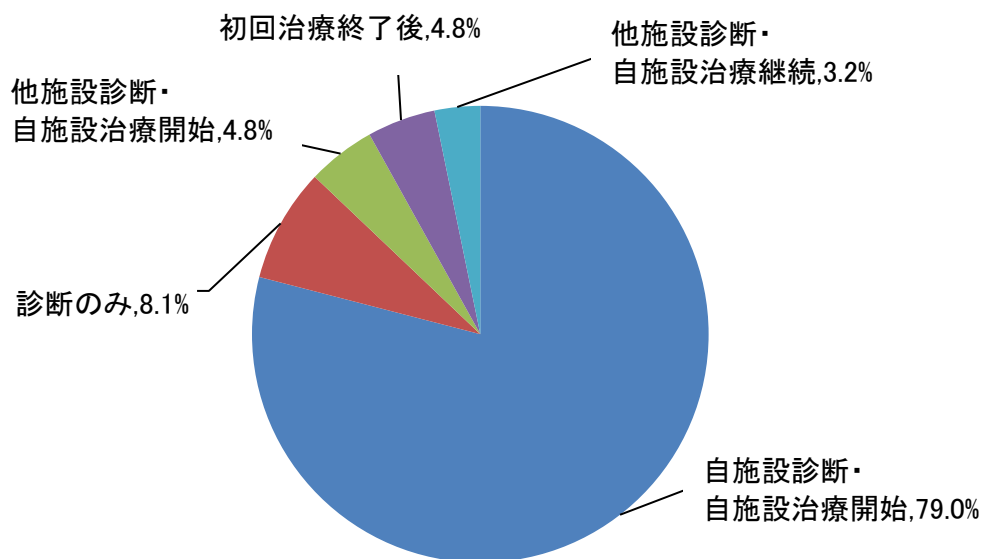
(Ⅲ期)

- ・腹腔動脈幹または上腸間膜動脈に浸潤する腫瘍

(Ⅳ期)

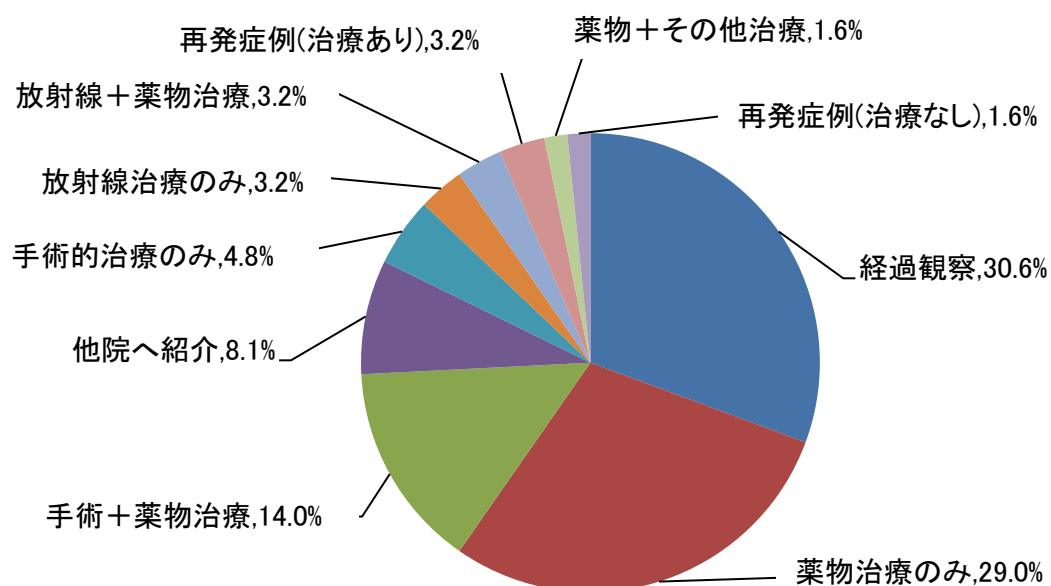
- ・遠隔転移あり

(症例区分別内訳)



* 治療は、当院での経過観察も含む

(治療内容内訳)

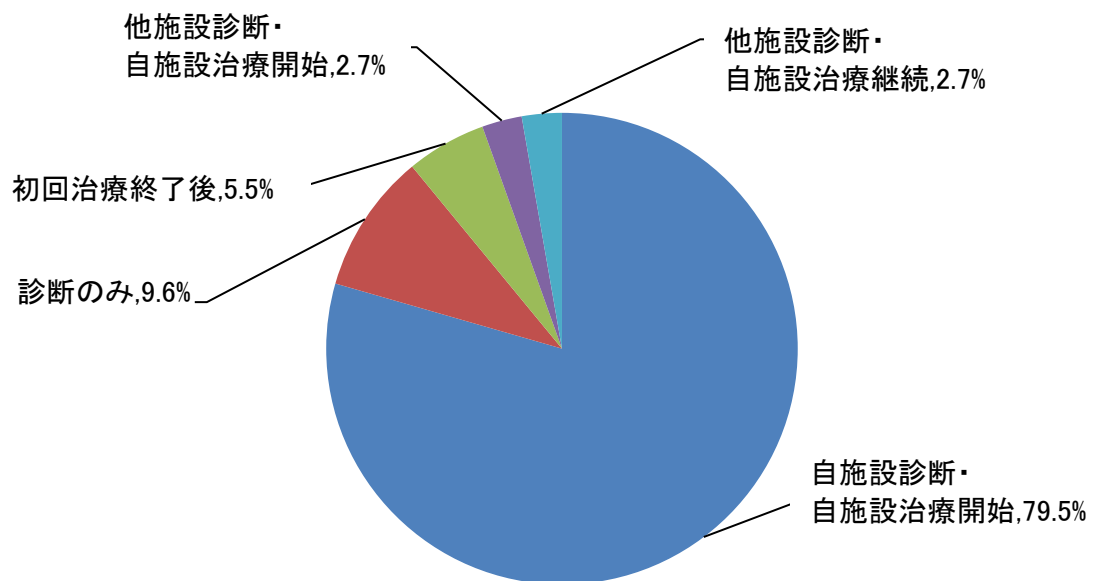


[▲目次に戻る](#)

2016 年(平成 28 年)がん登録 白血病及び造血器疾患:73 件

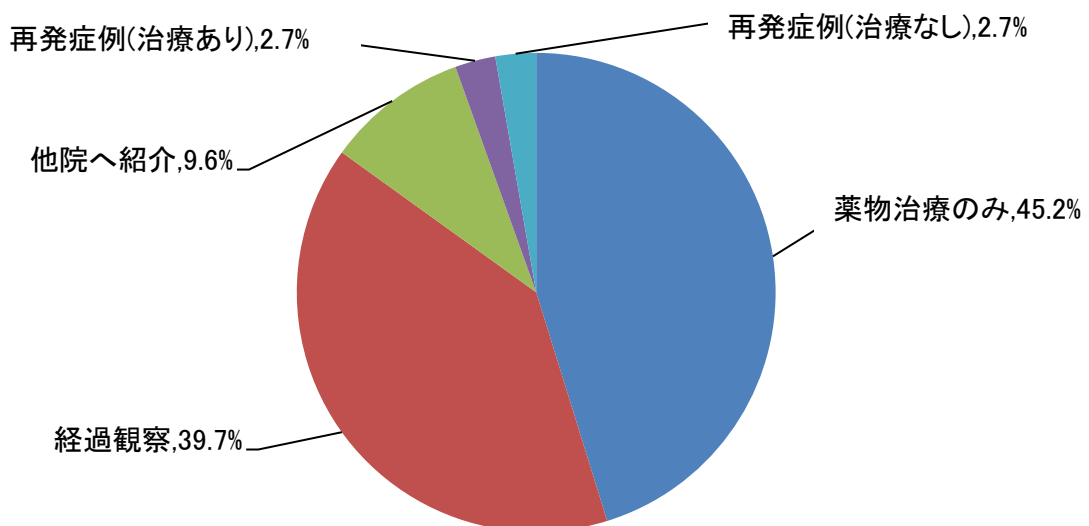
*白血病及び造血器疾患は、病期分類は規定されていない為掲載せず

(症例区分別内訳)



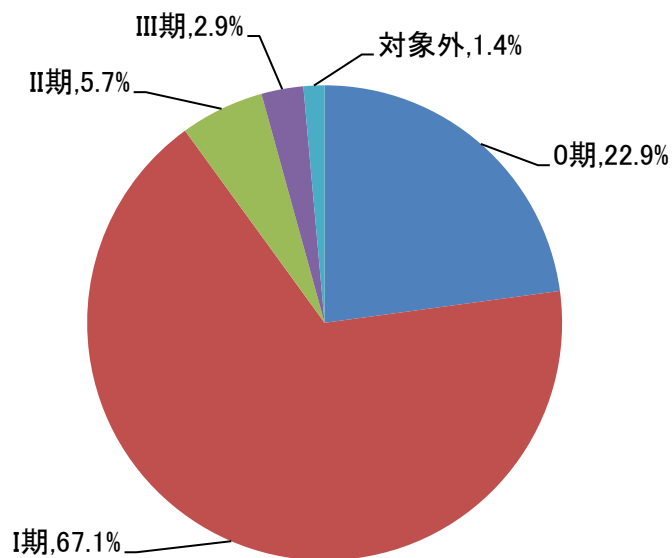
* 治療は、当院での経過観察も含む

(治療内容内訳)



[▲目次に戻る](#)

2016 年(平成 28 年)がん登録 皮膚:70 件
(UICC 第 7 版 ステージ分類内訳)



*皮膚がんで病理組織が肉腫はステージ分類がない為、対象外で計上

*** 皮膚(外陰・陰茎・眼瞼を除く)**

(0 期)

- ・上皮内癌

(I 期)

- ・最大径が 2cm 以下の腫瘍

(II 期)

- ・最大径が 2cm をこえる腫瘍

(III 期)

- ・ I と II 期の条件に、最大径が 3cm 以下の、1 個の所属リンパ節転移を認める腫瘍
- ・筋肉、骨、軟骨、顎、眼窩など深部構造に浸潤する腫瘍で所属リンパ節転移を認めないもの、もしくは最大径が 3cm 以下の、1 個の所属リンパ節転移を認める腫瘍

(IV 期)

- ・頭蓋底、中軸骨格の直接または神経周辺への浸潤を伴う腫瘍
- ・遠隔転移あり

*** 皮膚悪性黒色腫**

(0 期)

- ・上皮内癌

(Ⅰ 期)

- ・厚さが 1mm 以下の腫瘍
- ・厚さが 1mm をこえるが、2mm 以下で潰瘍を伴わない腫瘍

(Ⅱ 期)

- ・潰瘍を伴い、厚さが 1mm をこえる腫瘍
- ・潰瘍を伴わなく、厚さが 2mm をこえる腫瘍

(Ⅲ 期)

- ・所属リンパ節転移を認める腫瘍、および/または衛星転移または、in-transit 転移を認める腫瘍

(Ⅳ 期)

- ・遠隔転移あり

*** 眼瞼の皮膚**

(0 期)

- ・上皮内癌

(Ⅰ 期)

- ・最大径が 5mm 以下の腫瘍で、瞼板や眼瞼縁に浸潤していない腫瘍
- ・最大径が 5mm をこえるが、10mm 以下の腫瘍、または瞼板や眼瞼縁に浸潤する腫瘍
- ・最大径が 10mm をこえるが、20mm 以下の腫瘍、または眼瞼全層に浸潤する腫瘍

(Ⅱ 期)

- ・最大径が 20mm をこえる腫瘍、または隣接する眼球または眼窩組織に浸潤する腫瘍、または神経周囲に浸潤する腫瘍

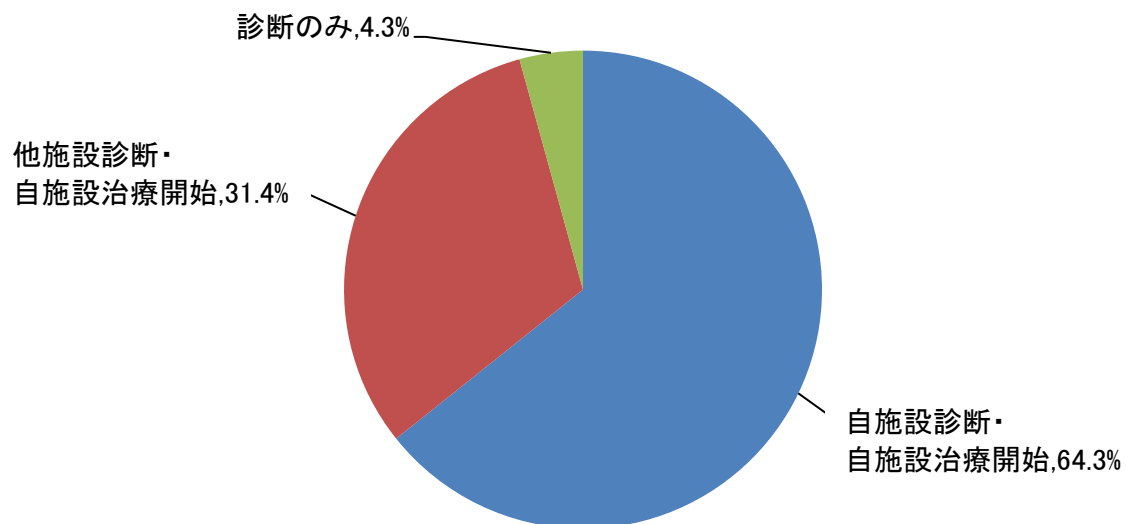
(Ⅲ 期)

- ・完全切除には眼球摘出、眼窩内容除去または骨切除を要する腫瘍で所属リンパ節転移を認めない腫瘍
- ・ⅠとⅡ期の条件に、所属リンパ節転移を認める腫瘍
- ・眼球、眼窩、頭蓋顔面組織、脳への広範な浸潤のため切除不可能な腫瘍

(Ⅳ 期)

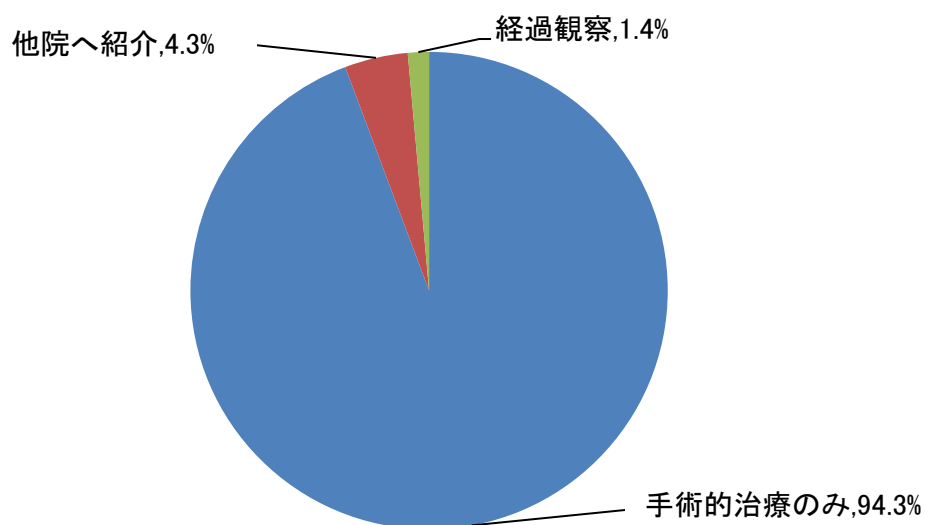
- ・遠隔転移あり

(症例区分別内訳)



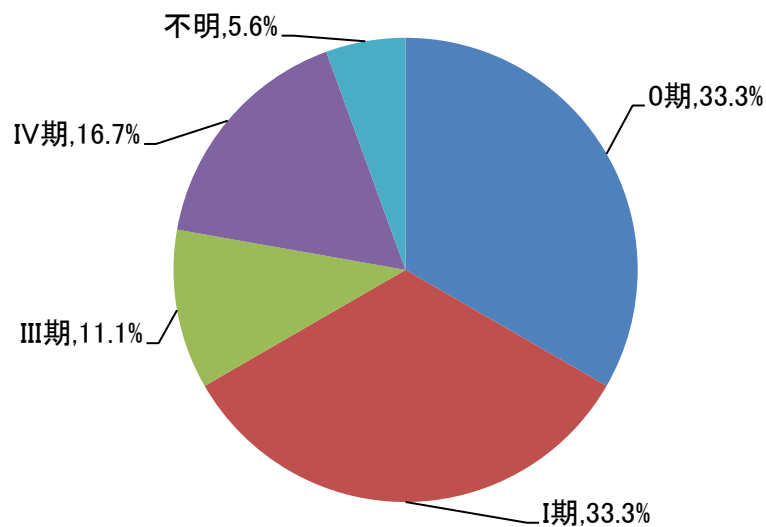
* 治療は、当院での経過観察も含む

(治療内容内訳)



[▲目次に戻る](#)

2016 年(平成 28 年)がん登録 子宮頸部:18 件
(UICC 第 7 版 ステージ分類内訳)



(0期)

- ・上皮内癌(浸潤前癌)

(I 期)

- ・頸部に限局する腫瘍(体部への進展は考慮に入れない)
- ・顕微鏡によってのみ診断可能な浸潤癌で、上皮基部から測定した深達度が 5.0mm 以下で水平方向進展が 7.0mm 以下の間質性浸潤を伴う腫瘍
- ・子宮頸部に限局する臨床的肉眼的病変、または上皮基部から測定した深達度が 5.0mm より大きく、水平方向進展が 7.0mm より大きい間質性浸潤を伴う顕微鏡的病変

(II 期)

- ・子宮をこえるが、骨盤壁、または膣の下 1/3 に浸潤しない腫瘍

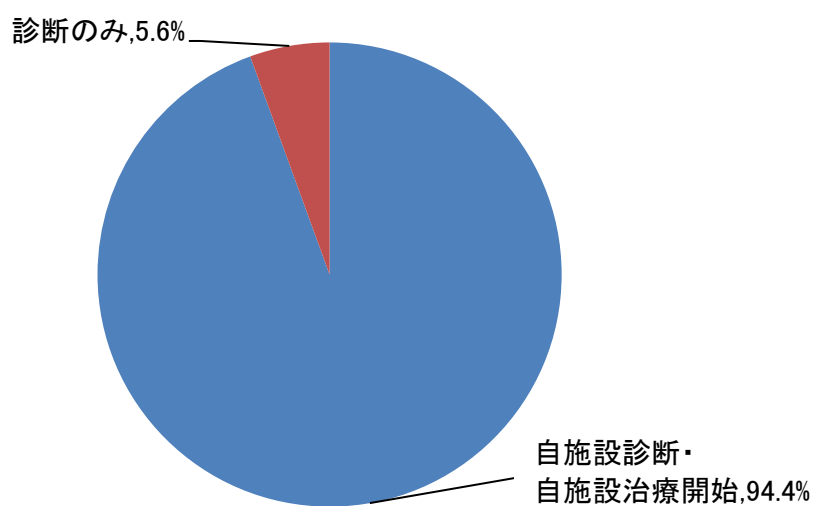
(III期)

- ・骨盤壁に進展、および/または膣の下 1/3 に浸潤、および/または水腎症または無機能腎をきたす腫瘍
- ・I～III期の条件に、所属リンパ節転移を認める腫瘍

(IV期)

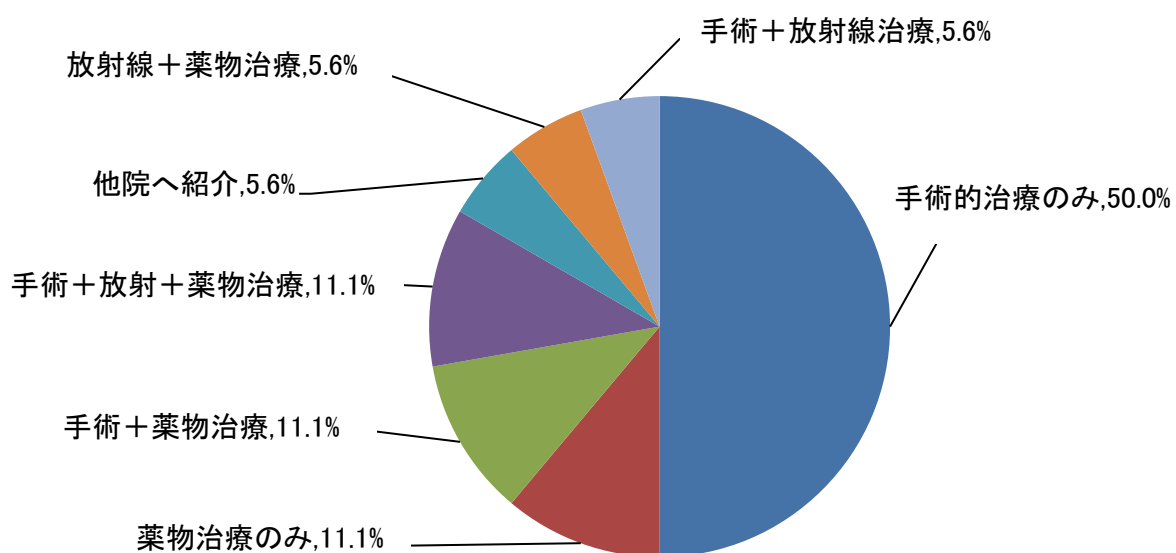
- ・膀胱粘膜、または直腸粘膜に浸潤、および/または小骨盤をこえて進展する腫瘍
- ・遠隔転移あり

(症例区分別内訳)



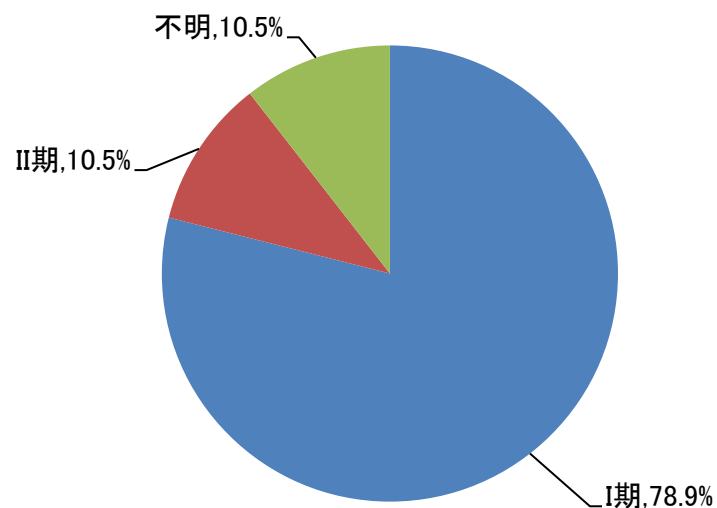
* 治療は、当院での経過観察も含む

(治療内容内訳)



[▲目次に戻る](#)

2016 年(平成 28 年)がん登録 子宮体部:19 件
(UICC 第 7 版 ステージ分類内訳)



*** 子宮内膜**

(0 期)

- ・上皮内癌(浸潤前癌)

(I 期)

- ・子宮体部に限局する腫瘍

(II 期)

- ・子宮頸部間質に浸潤するが、子宮をこえて進展しない腫瘍

(III 期)

- ・子宮体部の漿膜または付属器に浸潤する腫瘍(直接浸潤または転移)
- ・膣または子宮周辺に浸潤(直接浸潤または転移)
- ・骨盤リンパ節転移、傍大動脈リンパ節転移を認める腫瘍

(IV 期)

- ・膀胱粘膜、および/または腸管粘膜に浸潤する腫瘍
- ・遠隔転移あり

*** 平滑筋肉腫・子宮内膜間質肉腫・腺肉腫**

(I 期)

- ・子宮に限局する腫瘍

(II 期)

- ・子宮外に進展するが骨盤内の腫瘍

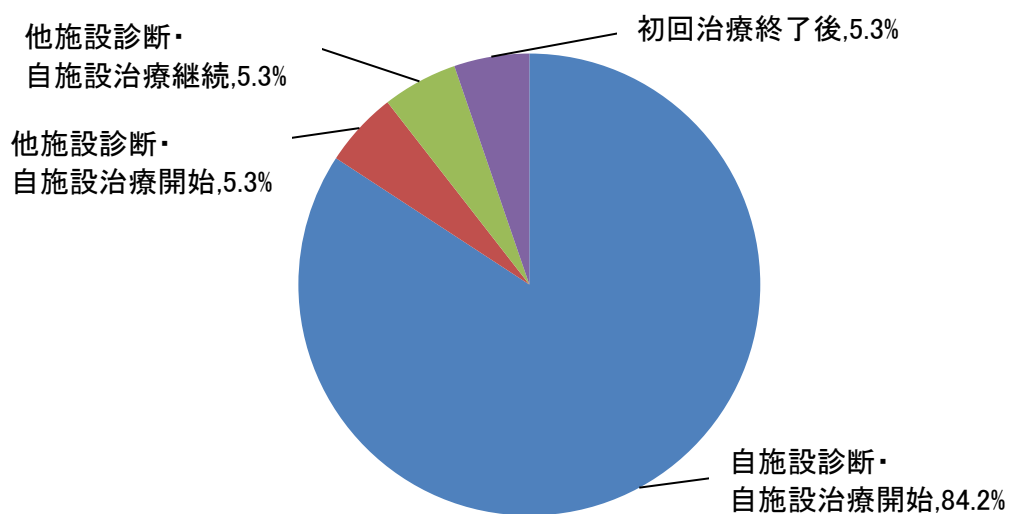
(III 期)

- ・腹部組織に関与する腫瘍
- ・I と II 期の条件に、所属リンパ節転移を認める腫瘍

(IV 期)

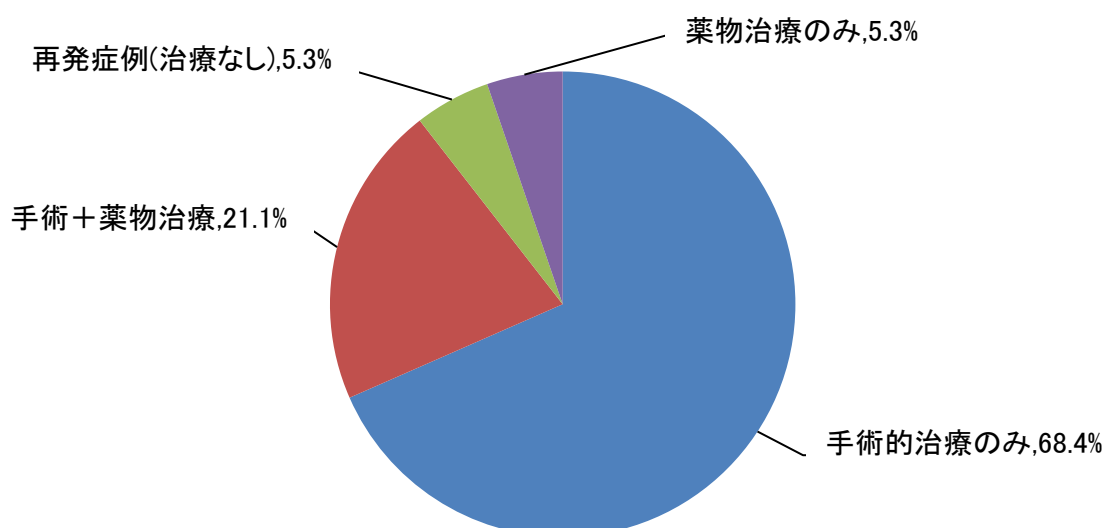
- ・膀胱粘膜または直腸粘膜への浸潤がある腫瘍
- ・遠隔転移あり

(症例区分別内訳)



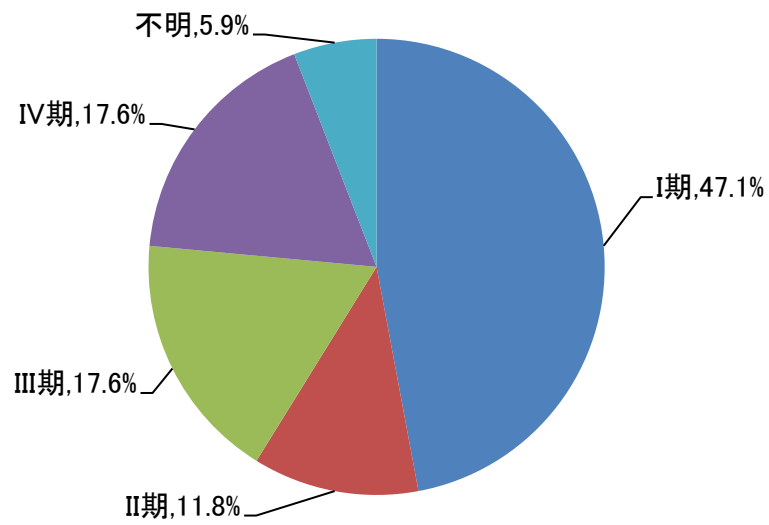
* 治療は、当院での経過観察も含む

(治療内容内訳)



[▲目次に戻る](#)

2016 年(平成 28 年)がん登録 卵巣:17 件
(UICC 第 7 版 ステージ分類内訳)



(I 期)

- ・一側または両側の卵巣に限局する腫瘍

(II 期)

- ・一側または両側の卵巣にあり、骨盤に浸潤する腫瘍

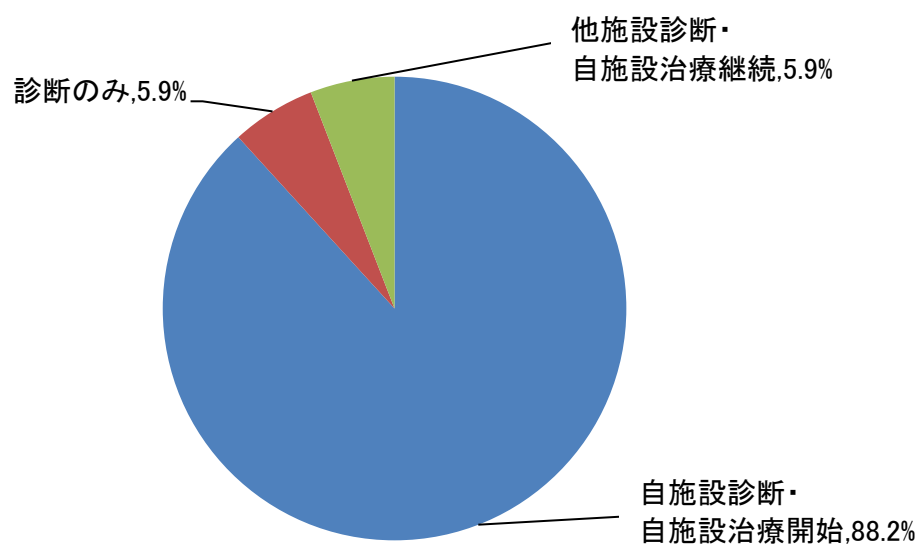
(III 期)

- ・一側または両側の卵巣に浸潤する腫瘍で、顕微鏡的に確認された骨盤外の腹膜転移を伴う腫瘍
- ・所属リンパ節転移を認める腫瘍

(IV 期)

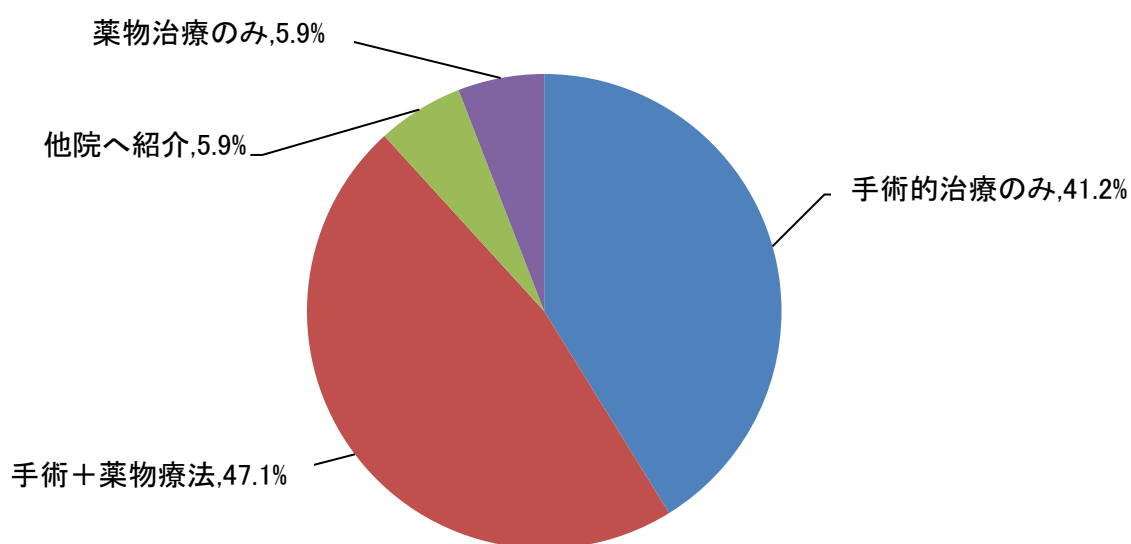
- ・遠隔転移あり

(症例区分別内訳)



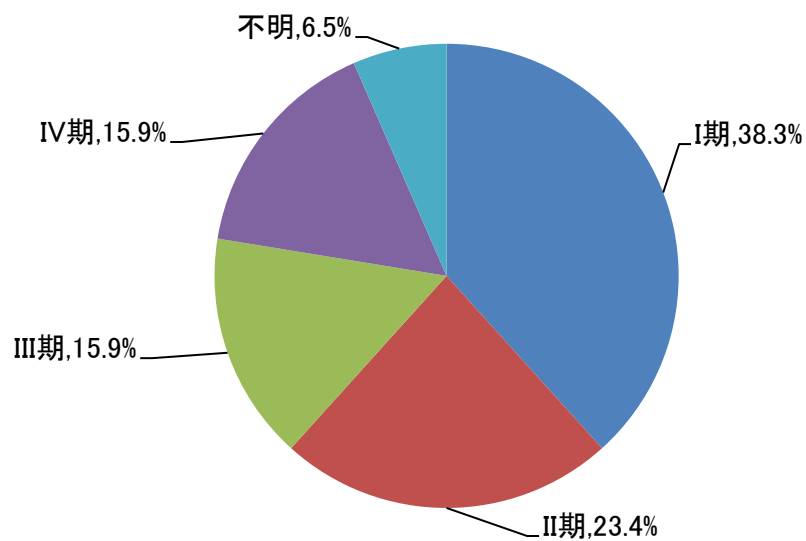
* 治療は、当院での経過観察も含む

(治療内容内訳)



[▲目次に戻る](#)

2016 年(平成 28 年)がん登録 前立腺:107 件
(UICC 第 7 版 ステージ分類内訳)



(I 期)

- ・触知不能、または画像診断不可能な臨床的に明らかでない腫瘍で、組織学的に偶発的に発見される腫瘍、または針生検により確認される腫瘍(たとえば PSA の上昇による)
- ・前立腺の片葉の 1/2 以内に限局する腫瘍

(II 期)

- ・前立腺の片葉の 1/2 をこえ広がるが、両葉には及ばない腫瘍
- ・両葉へ進展する腫瘍

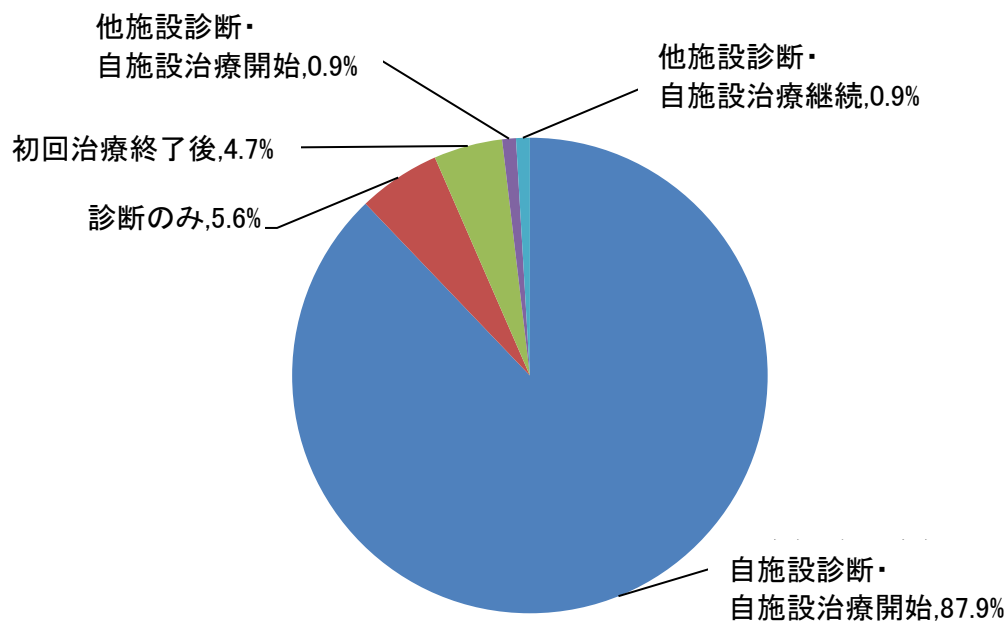
(III 期)

- ・前立腺被膜をこえて進展する腫瘍(一側性または両側性)、または顕微鏡的に膀胱頸部へ浸潤する腫瘍
- ・精嚢に浸潤する腫瘍

(IV 期)

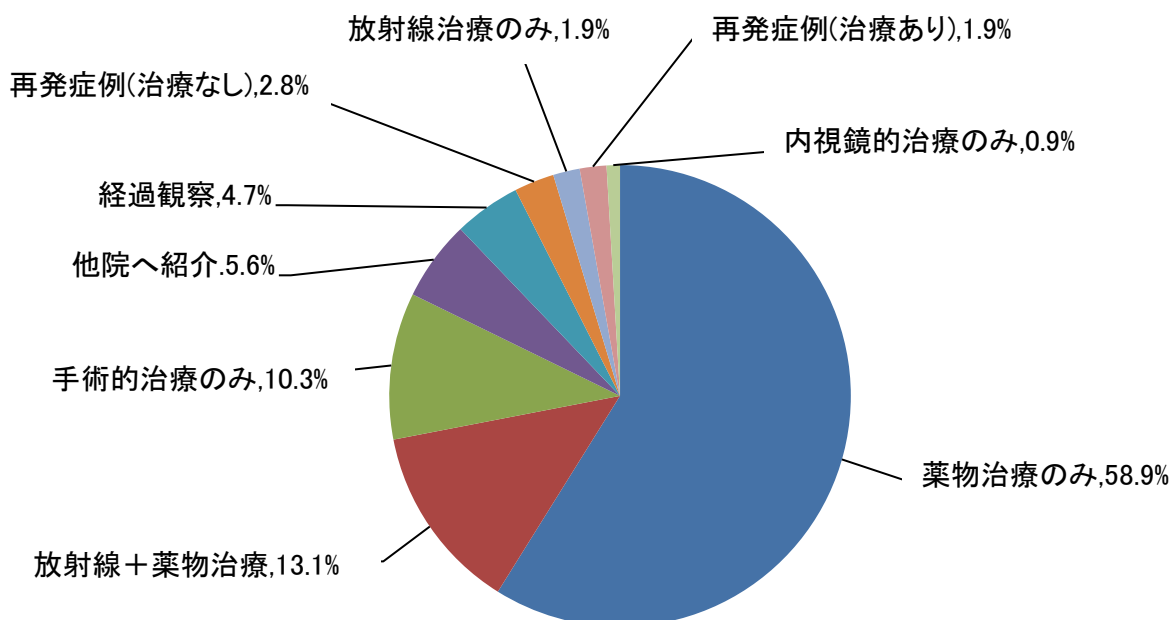
- ・精嚢以外の隣接臓器(外括約筋、直腸、挙筋、および/または骨盤壁)に固定、または浸潤する腫瘍
- ・所属リンパ節転移を認める腫瘍
- ・遠隔転移あり

(症例区分別内訳)



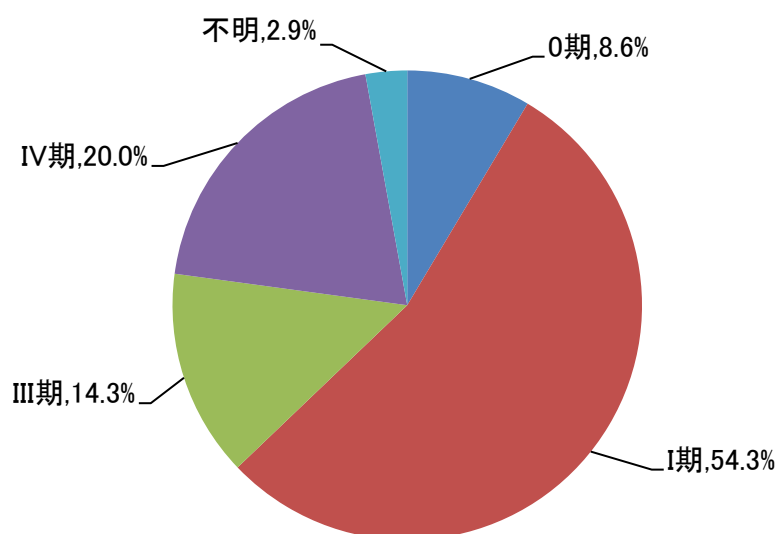
* 治療は、当院での経過観察も含む

(治療内容内訳)



[▲目次に戻る](#)

2016 年(平成 28 年)がん登録 腎臓・腎盂・尿管:35 件
(UICC 第 7 版 ステージ分類内訳)



*** 腎**

(I 期)

- ・最大径が 7cm 以下で腎に限局する腫瘍

(II 期)

- ・最大径が 7cm をこえて腎に限局する腫瘍

(III 期)

- ・I と II 期の条件に、所属リンパ節転移を認める腫瘍
- ・肉眼的に腎静脈やその区域静脈(壁に筋組織を有する)に進展する腫瘍、または腎周囲および/または腎洞(腎盂周囲)脂肪組織に浸潤するが Gerota 筋膜をこえない腫瘍
- ・肉眼的に横隔膜上または下の大静脈内に進展、または大静脈壁に浸潤する腫瘍

(IV 期)

- ・Gerota 筋膜をこえて浸潤する腫瘍(同側副腎への連続的進展を含む)
- ・遠隔転移あり

*** 腎盂・尿管**

(0 期)

- ・乳頭状非浸潤癌
- ・上皮内癌

(I 期)

- ・上皮下結合組織に浸潤する腫瘍

(II 期)

- ・筋層に浸潤する腫瘍

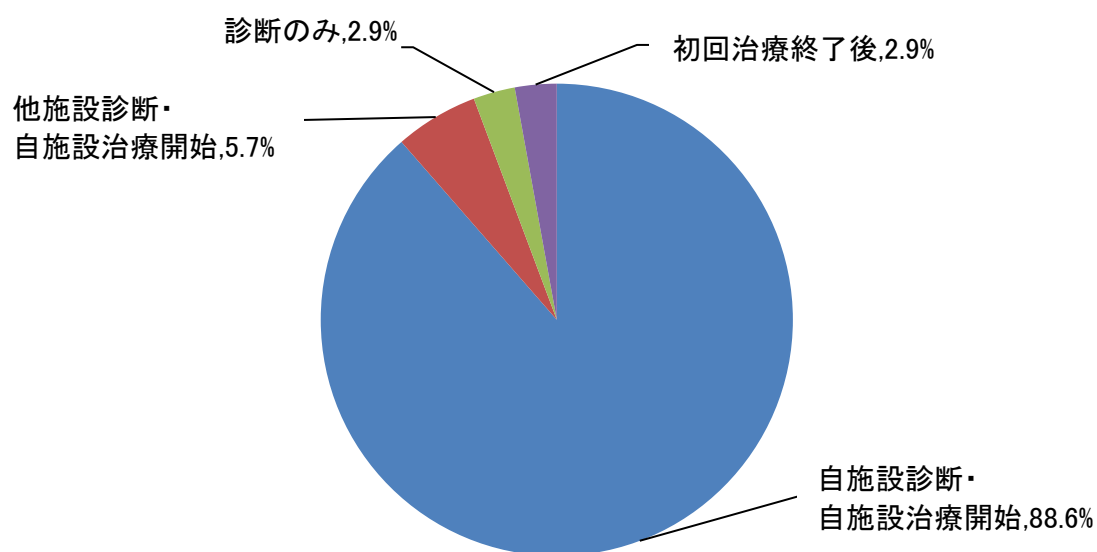
(III 期)

- ・(腎盂)筋層をこえて腎盂周囲脂肪組織または腎実質に浸潤する腫瘍
- ・(尿管)筋層をこえて尿管周囲脂肪組織に浸潤する腫瘍

(IV 期)

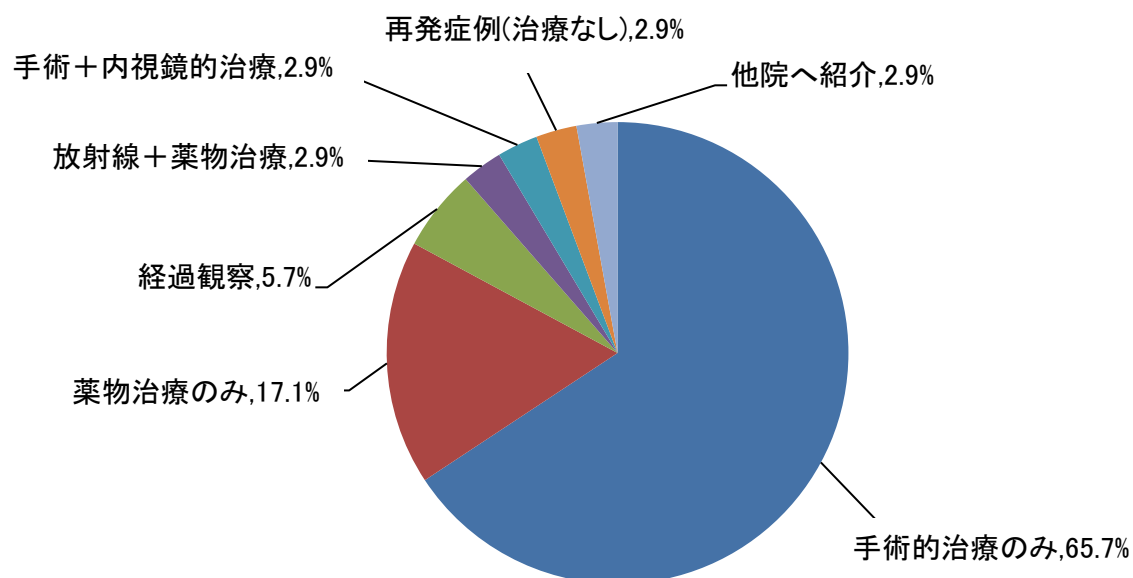
- ・隣接臓器または腎をこえて腎周囲脂肪組織に浸潤する腫瘍
- ・遠隔転移あり

(症例区分別内訳)



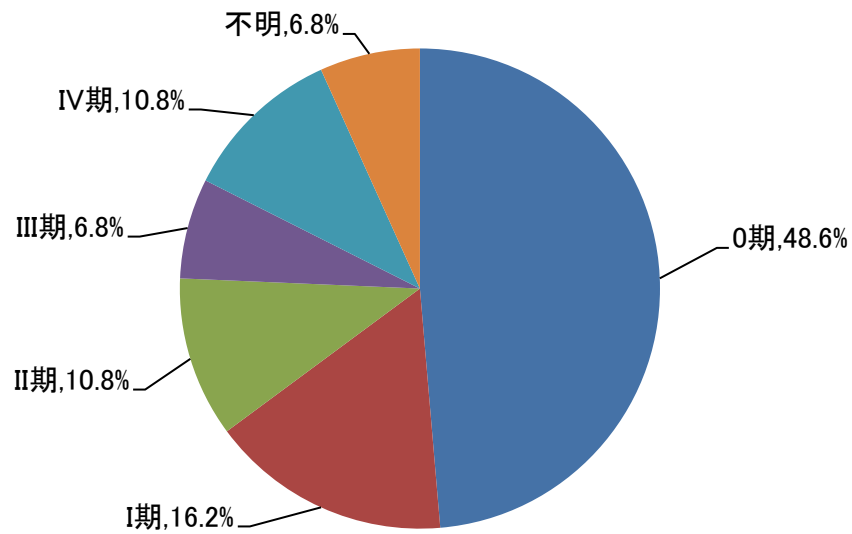
* 治療は、当院での経過観察も含む

(治療内容内訳)



[▲目次に戻る](#)

2016 年(平成 28 年)がん登録 膀胱:74 件
(UICC 第 7 版 ステージ分類内訳)



(0期)

- ・(Oa 期)乳頭状非浸潤癌
- ・(Ois 期)上皮内癌

(I 期)

- ・上皮下結合組織に浸潤する腫瘍

(II 期)

- ・筋層に浸潤する腫瘍

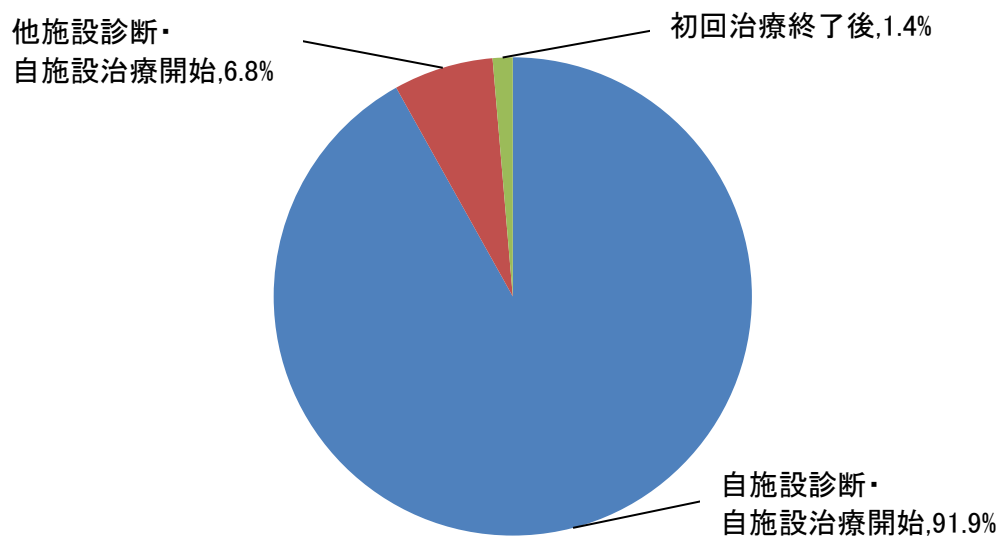
(III 期)

- ・顕微鏡的、肉眼的(膀胱外の腫瘍)に膀胱周囲脂肪組織に浸潤する腫瘍
- ・前立腺、または子宮または膣に浸潤する腫瘍

(IV 期)

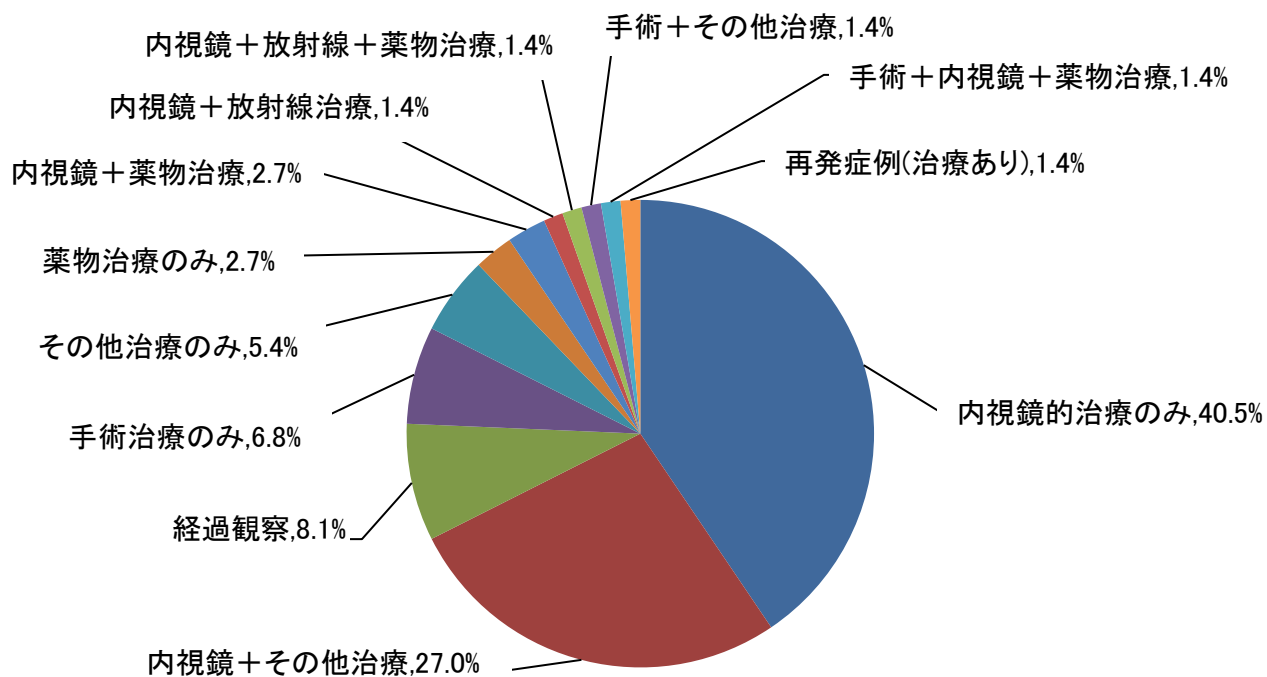
- ・骨盤壁、または腹壁に浸潤する腫瘍
- ・所属リンパ節転移を認める腫瘍
- ・遠隔転移あり

(症例区分別内訳)



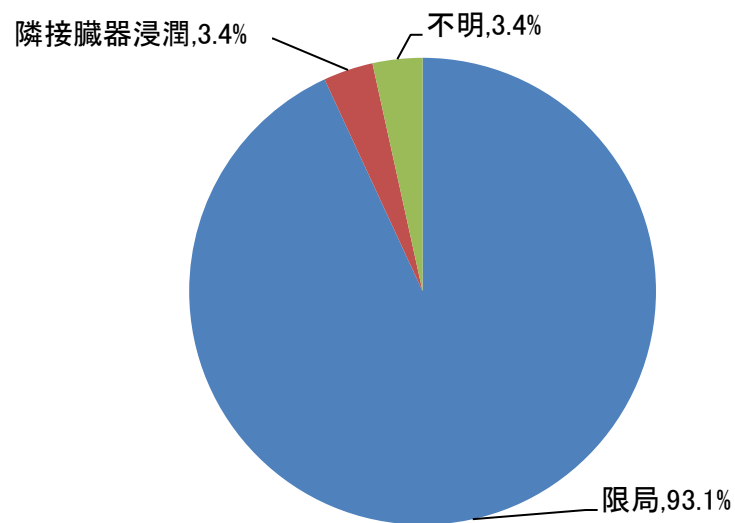
* 治療は、当院での経過観察も含む

(治療内容内訳)



[▲目次に戻る](#)

2016 年(平成 28 年)がん登録 頭蓋内腫瘍:29 件
(UICC 第 7 版 進展度分類内訳)



*** 頭蓋内腫瘍の病期分類は規定されていない為、進展度で分類**

(限局)

- ・大脳、小脳、脳幹の 1 側に限定
- ・テント下腫瘍の 1 側に限定
- ・脳室に限定、脳室系へ浸潤

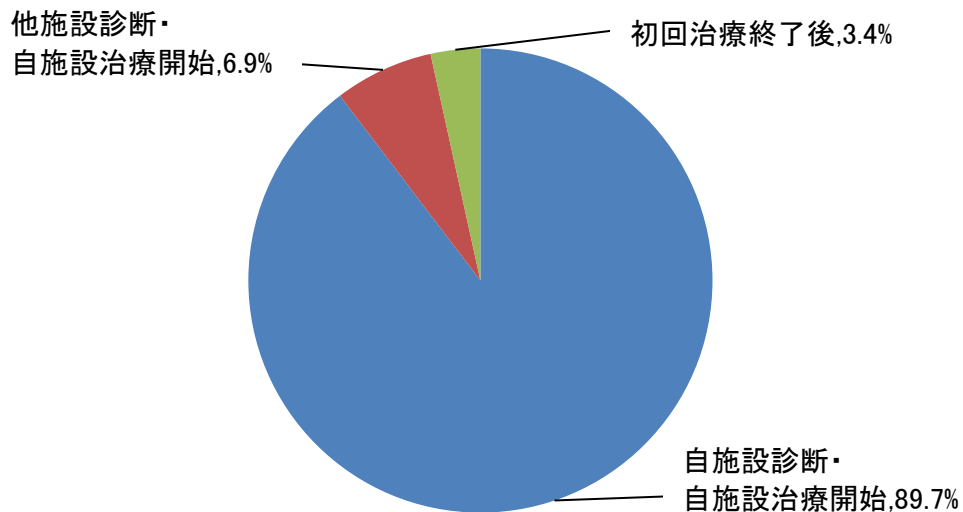
(隣接臓器浸潤)

- ・正中線を越える侵襲
- ・テント上から下又は逆
- ・頭蓋骨、髄膜、主要血管、脳神経へ浸潤
- ・中枢神経系の外側へ進展

(遠隔転移)

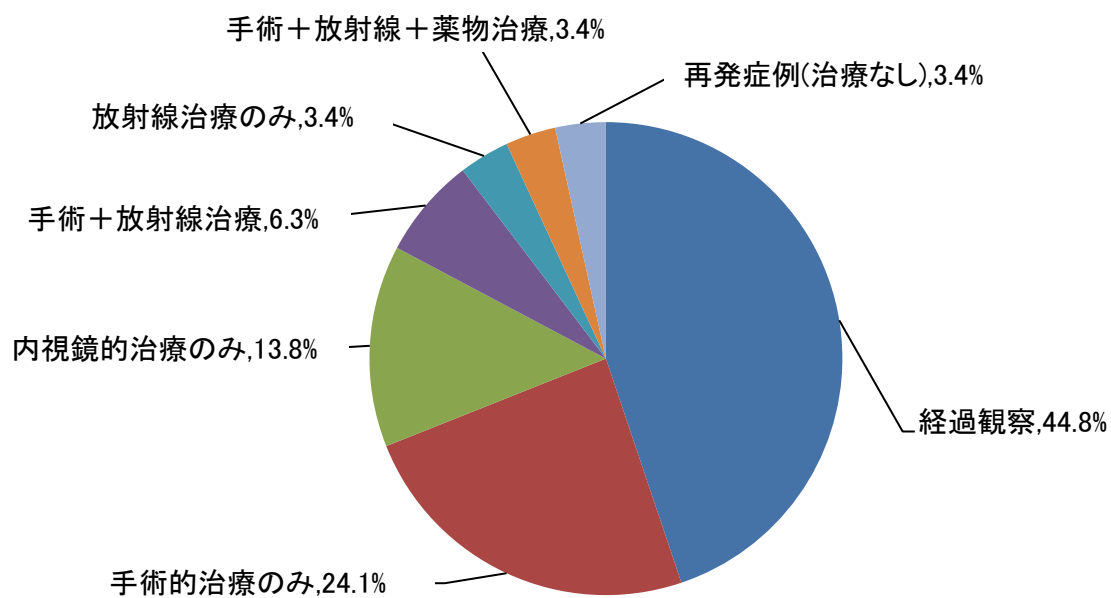
- ・転移、髄膜播種

(症例区分別内訳)



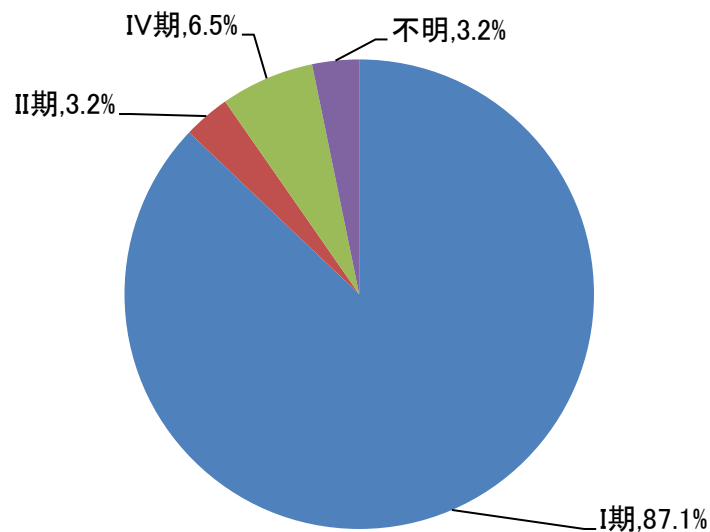
* 治療は、当院での経過観察も含む

(治療内容内訳)



[▲目次に戻る](#)

2016 年(平成 28 年)がん登録 甲状腺:31 件
(UICC 第 7 版 ステージ分類内訳)



*** 乳頭癌および濾胞癌<45 歳以上>、髄様癌**

(I 期)

- ・甲状腺に局限し、最大径が 2cm 以下の腫瘍

(II 期)

- ・甲状腺に局限し、最大径が 2cm をこえ 4cm 以下の腫瘍

(III 期)

- ・I と II 期の条件に、頸部中央区域リンパ節転移を認める腫瘍
- ・甲状腺に局限し、最大径が 4cm をこえる腫瘍、もしくは大きさを問わず甲状腺の被膜外に軽度な進展(胸骨甲状筋あるいは甲状腺周囲脂肪組織に進展)する腫瘍で所属リンパ節転移を認めない腫瘍、もしくは頸部胸部中央区域リンパ節転移を認める腫瘍

(IV 期)

- ・甲状腺の被膜をこえて進展し、皮下軟部組織、喉頭、気管、反回神経のいずれかに浸潤する腫瘍
- ・I と II 期の条件または、甲状腺に局限し最大径が 4cm を超える腫瘍、もしくは大きさを問わず甲状腺の被膜外に軽度な進展(胸骨甲状筋あるいは甲状腺周囲脂肪組織に進展)する腫瘍で、一側、両側もしくは対側の頸部外側区域リンパ節あるいは上縦隔リンパ節に転移を認める腫瘍
- ・椎前筋膜、縦隔内の血管に浸潤する腫瘍、または頸動脈を全周性に取り囲む腫瘍
- ・遠隔転移あり

*** 乳頭癌および濾胞癌<45 歳未満>**

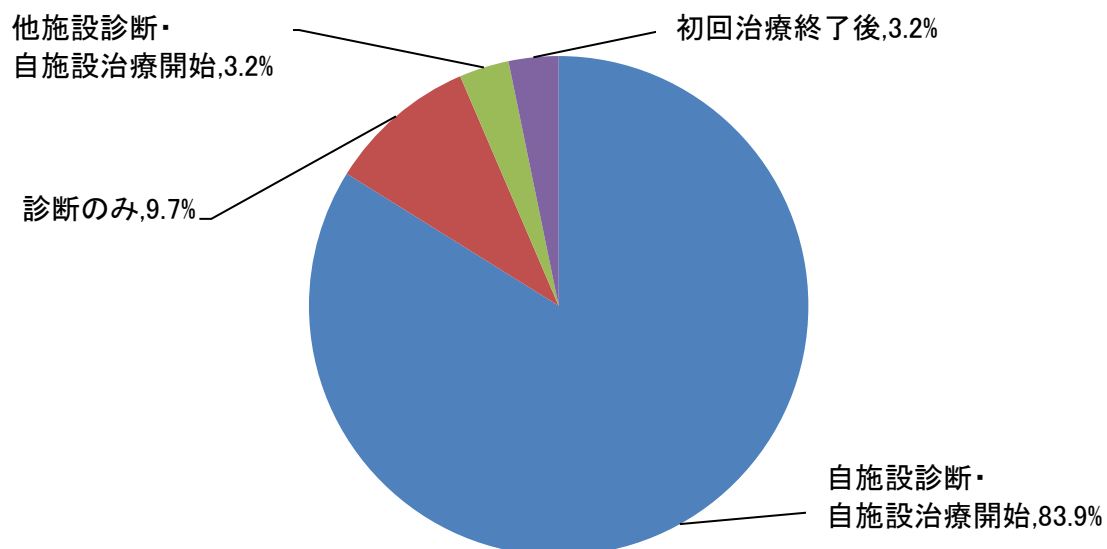
(I 期)

- ・遠隔転移なし

(II 期)

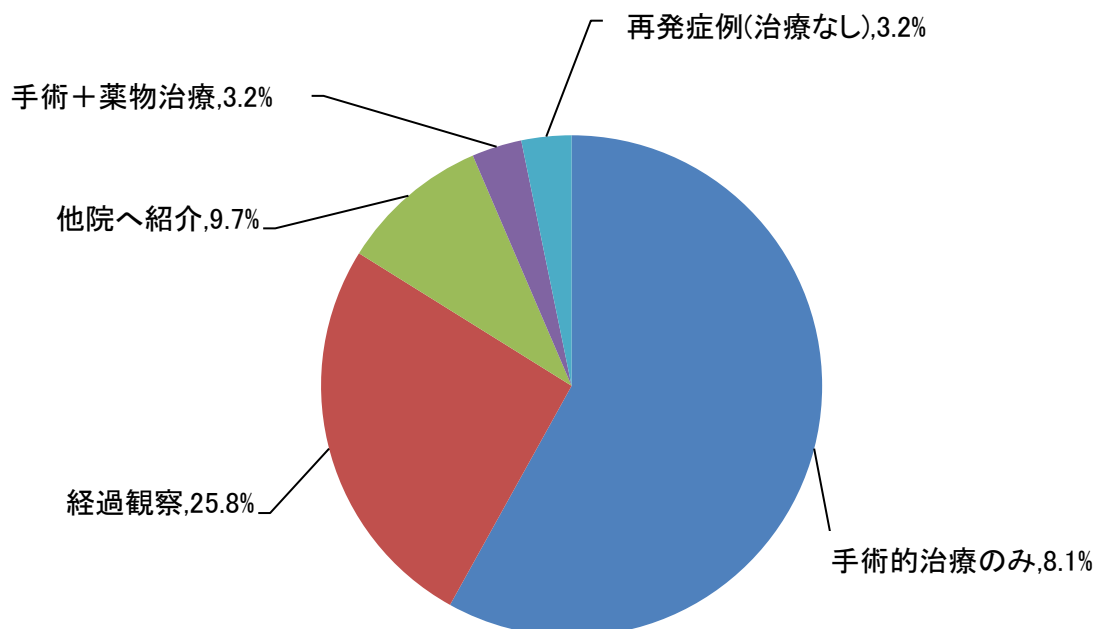
- ・遠隔転移あり

(症例区分別内訳)



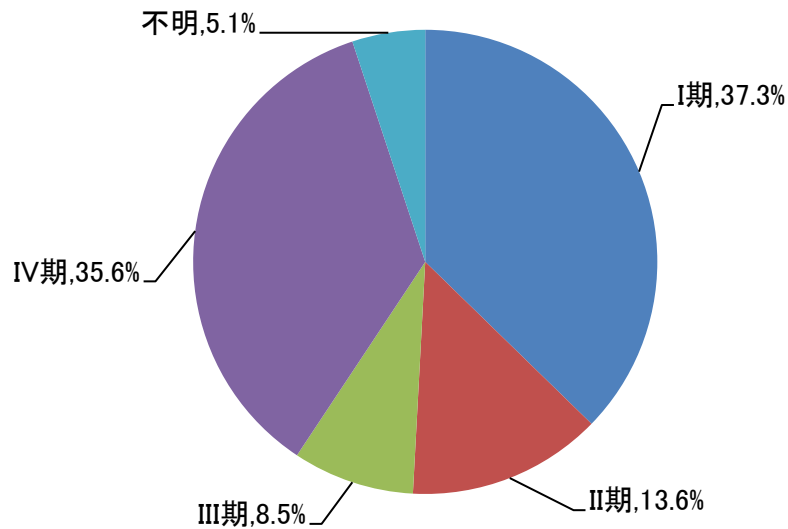
* 治療は、当院での経過観察も含む

(治療内容内訳)



[▲目次に戻る](#)

2016 年(平成 28 年)がん登録 悪性リンパ腫:59 件
(UICC 第 7 版 ステージ分類内訳)



(I 期)

- ・リンパ節領域の 1 領域のみに限局した病変
- ・節外性臓器/部位の 1 臓器/1 部位のみに限局した病変

(II 期)

- ・横隔膜の上下いずれか一側に限局したリンパ節領域の 2 領域以上に病変
- ・節外性臓器/部位の 1 臓器/1 部位のみに病変があり、さらにその所属リンパ節に病変
(その臓器/部位と横隔膜の上下が同一のリンパ節領域の病変があっても可)

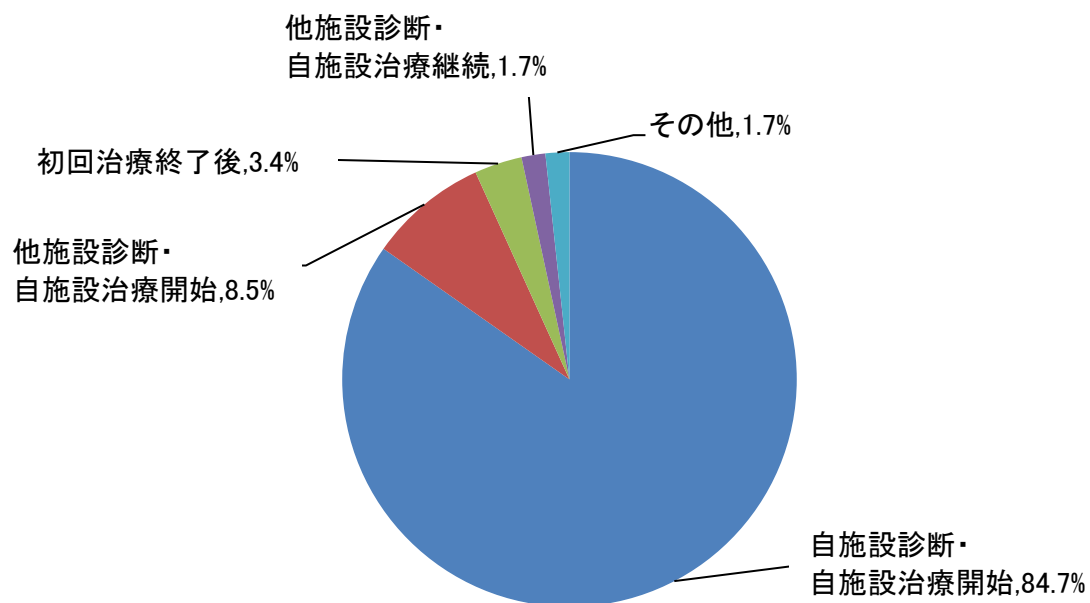
(III 期)

- ・横隔膜の上下両側に位置するリンパ節領域に病変
- ・節外性臓器/部位の 1 臓器/1 部位にのみに病変
- ・脾病変の伴う場合

(IV 期)

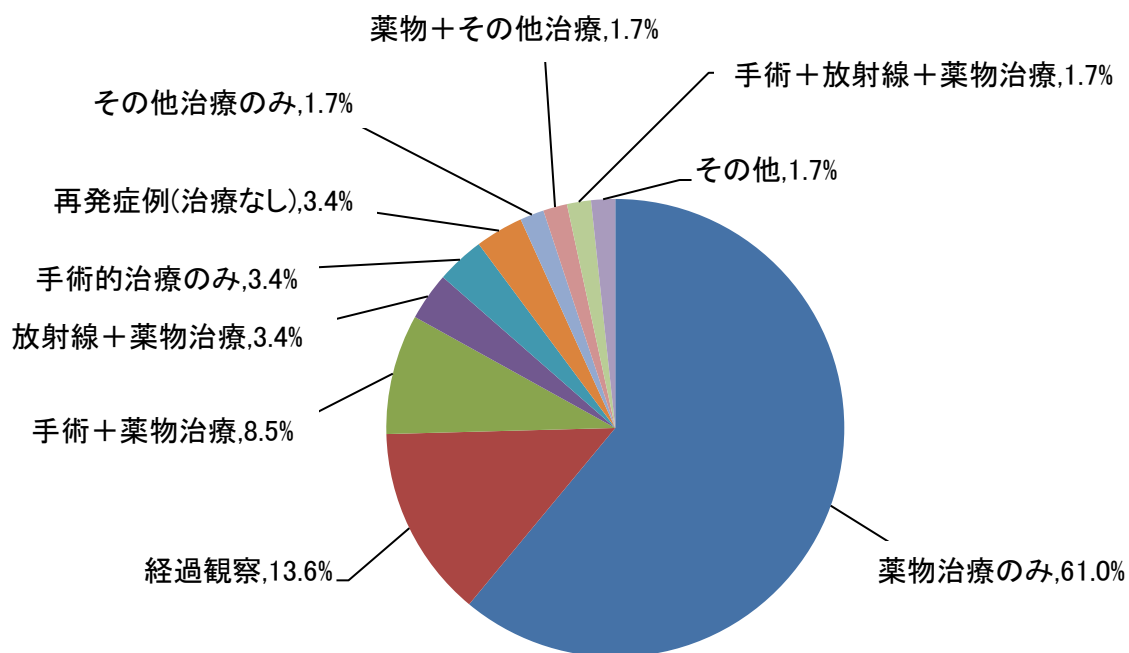
- ・節外性臓器/部位の 2 臓器/2 部位以上に病変
- ・節外性臓器/部位に病変があり、それが播種性に進展している場合
- ・節外性臓器/部位の 1 臓器/1 部位のみに病変があり、さらにその所属外のリンパ節に病変

(症例区分別内訳)



* 治療は、当院での経過観察も含む

(治療内容内訳)



[▲目次に戻る](#)